PowerChute Business Edition v.6.1.x

Update モジュール

(PCBE-061-004)

適用作業手順書

有効期限以降の適用に限る

第1版

改版履歴

版数	日付	改版頁	改版内容	
1	2005/07/25		初版発行	

はじめに

本手順書は、ダウンロードした Update モジュールを使用し、有効期限以降に適用作業を実施することを前提に作成しております。



有効期限経過後は、上記の2通りの状態が存在します。

- 有効期限経過後(A): PowerChute Business Edition エージェント/サーバ(APC PBE Agent・APC PBE Server)サービスの状態が開始であり、**有効期限前と同様、Update の適 用作業時の OS 再起動は基本的に必要ありません。**
- 有効期限経過後(B): PowerChute Business Edition エージェント/サーバ(APC PBE Agent・APC PBE Server)サービスの状態が開始中(ただし、Windows NT4.0 ではサービスの状態が「開始中」でも「開始」と表示されます)であり、Update の適用作業中にOSの再起動が必要となります。

以下、それぞれの状態を「有効期限経過後(A)」、「有効期限経過後(B)」とします。

≪注意≫

- ・ご使用中の環境が Windows XP でかつ有効期限経過後(B)の場合、アンインストール後、本 Update モジュールより新規インストールする必要があります。
- ・有効期限経過後(B)の場合、事前準備作業において、PowerChute Business Edition コンソール からの確認はできませんので、インストールモジュールのファイルバージョンによる確認が必要 となります。

1. 適用対象ソフトウェア	1
2. 適用対象機種	1
3. PowerChute Business Edition 製品構成	2
3.1. PowerChute Business Edition エージェント	2
3.2. PowerChute Business Edition サーバ	2
3.3. PowerChute Business Edition $\exists \gamma \gamma \neg \nu$	2
4. 作業工程	4
5. 注意制限事項	6
6. 事前準備	.15
6.1. PowerChute Business Edition インストール確認	.15
6.2. PowerChute Business Edition インストールフォルダの確認	.16
6.3. PowerChute Business Edition バージョン確認方法	.19
6.3.1. PowerChute Business Edition コンソールからの確認	.19
6.3.2. インストールモジュールからの確認	.23
6.4. スケジュール情報の確認	.24
6.5. サービスの状態確認(変更)	.27
6.6. Update 適用状況の確認	. 3 0
6.7. PowerChute Business Edition コンソールのログアウト	. 3 5
7. Update モジュール(PCBE-061-004)適用手順	.36
7.1. PCBE-061-004 アップデートモジュールの解凍	.36
7.2. Windows 環境への適用	.37
7.3. Linux 環境への適用	.45
7.4. Update 適用結果の確認	.47
8. 補足資料	.54
8.1. 有効期限経過後にインストールした場合のエラーメッセージ	.54
8.2. data.dat 削除手順	.55
8.3. 手動アンインストール手順	.57
8.3.1.Windows 環境の場合	.57
8.3.2. Linux 環境の場合	.61
8.4. PowerChute Business Edition 新規インストール	.62
8.5. スケジュールシャットダウン中に手動にてマシンを起動し作業した際の注意事項	.63

もくじ

1.適用対象ソフトウェア

型番	製品名称
UL1057-002	PowerChute Business Edition v.6.1
UL1047-003	ESMPRO/UPSManager ver2.0 (PowerChute Business Edition $\forall \gamma \land$)
	に添付の PowerChute Business Edition v.6.1
UL4001-002	ESMPRO/UPSManager ver2.0 (PowerChute Business Edition $\forall \gamma \downarrow$)
	<linux版>に添付の PowerChute Business Edition v.6.1</linux版>
N8130-04CP09	バックアップオプションパック(DAT)に添付の
	PowerChute Business Edition v.6.1
N8130-04CP10	バックアップオプションパック(DAT)に添付の
	PowerChute Business Edition v.6.1
N8130-08CP07	バックアップオプションパック(AIT)に添付の
	PowerChute Business Edition v.6.1
N8130-08CP08	バックアップオプションパック(AIT)に添付の
	PowerChute Business Edition v.6.1
N8130-09CP02	バックアップオプションパック(AIT)に添付の
	PowerChute Business Edition v.6.1
N8130-0ACP01	バックアップオプションパック(AIT)に添付の
	PowerChute Business Edition v.6.1

2.適用対象機種

対象シリーズ	備考
Express5800/50,100 シリーズ	Blade サーバを除く
iStorage NS シリーズ	2002 年度上期以降出荷モデル
Express5800/CacheServer	Nシリーズのみ
Express5800/インターネット	以下のモデルのみ
アプライアンス InterSec シリーズ	Express5800/VC300a、Express5800/MW500a、
	Express5800/MW300a、Express5800/CS300a、
	Express5800/CS200a、Express5800/FW500b、
	Express5800/MW500b、Express5800/CS300b、
	Express5800/SG300a、Express5800/LB300b、
	Express5800/FW300a

3.PowerChute Business Edition 製品構成

PowerChute Business Edition v.6.1.x は、以下のコンポーネントで構成されます。 各コンポーネントが、別の装置にインストールされている場合もありますので、注意願います。 なお、本 Update モジュールは、PowerChute Business Edition エージェント/サーバが適用 対象となります。

3.1.PowerChute Business Edition エージェント

Smart-UPS のステータス監視機能、および長時間の停電時に Smart-UPS が保護する コンピュータのシステムシャットダウン機能を提供しています。このソフトウェアは、 Smart-UPS システムに直接接続されている各サーバ上にインストールする必要があります。 エージェントの設定はコンソールから行えますが、WebUI 機能により、リモートコンピュータ からブラウザを使用して設定確認/変更も可能です。 エージェントは、Windows 版と Linux 版が存在します。

3.2.PowerChute Business Edition サーバ

PowerChute Business Edition エージェントの設定と監視を行うために用いられます。 PowerChute Business Edition サーバは PowerChute Business Edition エージェントから情報を収集 して、イベントの追跡やイベント通知を行ったり、PowerChute Business Edition コンソールと 通信を行います。

<u>サーバは、Windows 版のみが用意されます。</u>

3.3.PowerChute Business Edition コンソール

PowerChute Business Edition サーバと接続して、Smart-UPS で保護されているシステムの 管理と設定を行います。

コンソールは、Windows 版のみが用意されます。

PowerChute Business Edition コンポーネント関連図

 ※PCBE コンソールは PCBE サーバのみと通信を行い、PCBE エージェントと通信は行いません。
 ※PCBE サーバは PCBE コンソールから指定された PCBE エージェントと通信を行います。
 ※PCBE エージェントは WebUI 機能を持っており、PCBE コンソールを使用せずブラウザで情報の 参照/設定も可能です。



○一台のサーバマシンに全てのコンポーネントをインストールして動作可能です。
 ○あるいは、各コンポーネントを別々のサーバマシンにインストールして動作可能です。

○Linux 版エージェントを使用する場合、エージェント(Linux 版)は Linux サーバ マシンにインストールし、他のコンポーネントは Windows サーバマシンに インストールする必要があります。

4.作業工程

開始



※ ご使用中の環境が Windows XP かつ有効期限経過後(B)の場合は、本 UPDATE モジュールより新規インストールが 必要となります。

【Linux 環境】

• PowerChute Business Edition エージェントへ Update モジュール適用(7.3項)

事後確認

- ・ Update 適用結果の確認
- 【Windows 環境】

PowerChute Business Edition エージェントの Update モジュール適用確認(7.4 (1) 項)

PowerChute Business Edition サーバの Update モジュール適用確認(7.4 (3)項)

【Linux 環境】

PowerChute Business Edition エージェントの Update モジュール適用確認(7.4 (2) 項)

・PowerChute Business Edition コンソールからの確認(7.4 (4) 項)



5.注意制限事項

(●・・・対象、空白・・・対象外)

項番	注意制限事項		Windows		
		エージ゛ェント	エージェント	サーハ゛	コンソール
5.1	有効期限以降に、PowerChute Business Edition エージェント/サーバサービスが「開始中」		•		
	の状態でアップデートインストールを実行すると、下記メッセージが表示されます。				
	「OK」ボタンを押下し、スタートメニューから OS を再起動後、各コンポーネントの				
	「Update」を選択し、再度、アップデートインストールを実行してください。				
	情報				
	インストールを続行するために現在インストールされているAPC サービスの状態が「開始中」のサービスが削除されました。 システムの再起動後に以下の製品のインストールを再度行い、インストールを完了してください。 - PowerChute Business Edition エージェント - PowerChute Business Edition サーハ				
	<u>(OK</u>				
5.2	本 UPDATE 適用後に PowerChute Business Edition をアンインストールした場合、	•	•	•	\bullet
	フォルダやファイルが PowerChute Business Edition のインストールフォルダ内に残る				
	場合があります。PowerChute Business Edition のインストールフォルダを確認し、				
	フォルダの中身とともに削除してください。				
5.3	有効期限経過後は、PowerChute Business Edition v.6.1 または v.6.1.2 エージェント/		•	•	
	サーバを製品 CD 媒体より新規インストールしないでください。				
	-エージェント:インストール可だが、正しく動作しません。				
	ーサーバ : インストール不可				
	※詳細は、「8.1 有効期限経過後にインストールした場合のエラーメッセージ」参照				

項番	注意制限事項		Windows		
		エージ゛ェント	エージ゛ェント	サーハ゛	コンソール
5.4	有効期限経過後に PowerChute Business Edition v.6.1 エージェントをインストールし		•		
	本 UPDATE を適用した場合は、一度、PowerChute Business Edition エージェントを				
	アンインストール後、本 UPDATE より新規インストールしてください。				
	※ESMPRO/UPSManager や、ESMPRO/AutomaticRunningController と連携して				
	いる PowerChute Business Edition エージェントをアンインストールする場合、				
	5.12 を参照し、アンインストールしてください。				
5.5	PCBE-061-001 • PCBE-061-002 (PowerChute Business Edition v.6.1 $+ - \times \mathcal{O}$ data.dat				
	の修正) は本 UPDATE に含まれておりますので、本 UPDATE 適用後は PCBE-061-001・				
	PCBE-061-002 を適用しないでください。				
	PCBE-061-001・PCBE-061-002 を適用した場合は、一度、PowerChute Business Edition				
	サーバ/コンソールをアンインストール後、本 UPDATE より新規インストールして				
	ください。				
	なお、PowerChute Business Edition サーバのインストールフォルダ内の data.dat				
	ファイルサイズが例えば数 10MB 以上となっているなど、非常に大きくなっている場合は				
	「8.2 data.dat 削除手順」を参照し data.dat ファイルは削除願います				
5.6	PowerChute Business Edition エージェントサービスに対し、「サービスのデスクトップ		•		
	の対話をサービスに許可」にチェックを入れていた場合、本 UPDATE 適用後にこの				
	チェックが外れる場合があります。必要に応じ、再度以下のチェックを入れてください。				
	※詳細は「6.5 サービスの状態確認 (変更)」参照				

項番	注意制限事項		Windows		
		エージ゛ェント	エージ゛ェント	サーハ゛	コンソール
5.7	Windows XP 環境にインストールされている PowerChute Business Edition エージェント		•	•	
	/サーバにおいて有効期限経過後、各々のサービスが「開始中」の状態で本 UPDATE を				
	アップデートインストールすることは出来ません。				
	※有効期限前であればアップデートインストール可能です。				
	アップデートインストールを実行しようとした場合、下記メッセージが出力され				
	ます。メッセージに従い、Windows XP をセーフモードで起動し、				
	PowerChute Business Edition エージェント/サーバをアンインストールして				
	ください。				
	「サービスが開始中のためアップデートインストールできません。				
	セットアップは終了します。Windows をセーフモードで起動し				
	PowerChute Business Edition をアンインストールしてからもう一度				
	インストールを実行して下さい。」				
	※OS をセーフモードで起動する方法の詳細については下記				
	(http://support.microsoft.com/default.aspx?scid=kb;ja;315222)				
	を参照してください。				
	※セーフモードで起動する際、OS シャットダウンができない(「設定を保存しています」				
	画面で停止)場合があります。この場合は、コンピュータの電源ボタンを押下し強制				
	終了してください。				
	※ESMPRO/UPSManager や、ESMPRO/AutomaticRunningController と連携して				
	いる PowerChute Business Edition エージェントをアンインストールする場合、				
	5.12 を参照の上、アンインストールしてください。				

項番	注意制限事項		Windows		
		エージ゛ェント	エージ゛ェント	サーハ゛	コンソール
5.8	既にインストールされている PowerChute Business Edition エージェント/サーバに		•		
	おいて、有効期限前に本 UPDATE をアップデートインストールした場合、				
	以下のメッセージが表示されることがあります。				
	その場合は、OS を再起動し再度アップデートインストールを実行してください。				
	APC PBE Agent CreateService failed -				
5.0	Windows 2000 環境にインストールされている PowerChute Business Edition				
0.9	Windows 2000 環境にインストールされている rowerChute Business Edition $x = \Im_x \times b/t = \pi i c t \otimes \tau c \delta$ 期限級過後 タカのサービスが「開始中」の世能で		•	•	
	エージェンドリーバにおいて有効期限経過後、谷々のリービスが「開始十」の状態で 本 LIDDATE をアップデートインストールオス提合 OS シャットダウン時にバッテル				
	「 A OIDATE を アフラブ 「 「 マスト 」 ルリ 3 物日、 OS マイ フトグリン 時に ハファブ パラメータのダイアログが表示されます				
	その場合は「すぐに終了」を選択し終了してください。				
	また、OSのイベントログに下記エラーがログされる場合があります。				
	動作上特に問題ありませんので、継続しアップデートインストールを行ってください。				
	[イベントログ]				
	エラー ID: 1000 Userenv				
	レジストリ クラス ファイルをアンロードできません。移動ファイルが				
	ある場合は、設定は複製されません。管理者に問い合わせてください。				
	詳細 アクセスが拒否されました。ビルド番号は((2195))です。				

項番	注意制限事項	Linux	Windows		
		エージ゛ェント	エーシ゛ェント	サーハ゛	コンソール
5.10	本 UPDATE をアップデートインストールした場合、OS イベントビューアに下記ログが		•		
	記録されることがあります。				
	[イベントログ]				
	ID:1106 警告				
	ソース:SNMP				
	説明:SNMP サービスは、存在しないまたは正しく構成されていない				
	拡張エージェント DLL <u>C:¥WINNT</u> ¥Syetem32¥APCSnmp.dll を				
	無視します。				
	<対応策>				
	$\cdot \text{HKEY_LOCAL_MACHINE} \\ \texttt{SYSTEM} \\ \texttt{`HKEY_LOCAL_MACHINE} \\ \texttt{SYSTEM} \\ \texttt{``HKEY_LOCAL_MACHINE} \\ ``HKEY_LOCAL_MACH$				
	Parameters¥ExtensionAgents 内の値 「SOFTWARE¥APC¥PowerChute Business				
	Edition¥agent¥snmp」が、複数登録されている場合は削除し1つにしてください。				
	※ レジストリはシステムにとって最も重要な部分です。作業を行う際は十分注意の上、				
	作業してください。				
	・ <u>C:¥WINNT</u> ¥Syetem32¥APCSnmp.dll ファイルが存在しない場合は、一度、				
	PowerChute Business Edition エージェントをアンインストール後、本 UPDATE より				
	新規インストールしてください。				
	※ "C:¥WINNT"は、OS によっては"C:¥WINDOWS"となります。				

項番	注意制限事項	Linux	Windows		
		エージ゛ェント	エージ゛ェント	サーハ゛	コンソール
5.11	下記作業を行った場合、正常にアンインストール出来ないことがあります。		•		
	正常にアンインストール出来ない場合は、手動でアンインストールしてください。				
	手動アンインストール方法は、「8.3 手動アンインストール手順」を参照ください。				
	-PowerChute Business Edition エージェント/サーバ サービスが				
	「開始中」の状態でアンインストールした場合				
	-有効期限経過後に PowerChute Business Edition v.6.1 または v.6.1.2 を				
	インストールした場合				
	※ESMPRO/UPSManagerや、ESMPRO/AutomaticRunningControllerと連携して				
	いる PowerChute Business Edition エージェントをアンインストールする場合、				
	5.12 を参照の上、アンインストールしてください。				
5.12	ESMPRO/UPSManagerや、ESMPRO/AutomaticRunningControllerと連携している		•		
	PowerChute Business Edition エージェントを再インストールする場合は、以下の作業を				
	行ってください。				
	※アップデートインストールの場合は必要ありません。				
	-ESMPRO/UPSManager と連携して使用している場合				
	本アップデート適用後に ESMPRO/UPSManager を再度インストールして				
	ください。				
	-ESMPRO/AutomaticRunningController と連携して使用している場合				
	PowerChute Business Edition のアンインストールを行う前に、				
	ESMPRO/AutomaticRunningControllerの「環境設定ウィザード」より				
	「PowerChute Business Edition 連携を行う」を解除してください。				
	また、本 UPDATE 適用後に「環境設定ウィザード」より「PowerChute				
	Business Edition 連携を行う」を有効にしてください。				

項番	注意制限事項		Windows		
		エージ゛ェント	エージ゛ェント	サーハ゛	コンソール
5.13	既にインストールされている PowerChute Business Edition コンソールに、本 UPDATE				•
	モジュールを適用する必要はありません。				
	但し、アップデート適用前の PowerChute Business Edition コンソールのバージョンが「6.1				
	ビルド21」あるいは「6.1.1 ビルド18」であった場合、UPDATE 適用後、PowerChute Business				
	Edition サーバへログインする際、PowerChute Business Edition コンソールの UPDATE があ				
	る旨がポップアップメッセージで通知されます。				
	その場合は[はい]を選択し、PowerChute Business Edition コンソールの UPDATE を実行し				
	てください。PowerChute Business Edition コンソールの UPDATE は、PowerChute Business				
	Edition サーバからダウンロードされ、その後自動的に PowerChute Business Edition コンソ				
	ールの UPDATE がインストールされます。				
	PowerChute Business Edition コンソールの UPDATE インストール完了後、PowerChute				
	Business Edition コンソールのメニューより、[ヘルプ]-[バージョン情報]を選択し、				
	PowerChute Business Edition コンソールのバージョンが「6.1.2 ビルド 2」に変更されている				
	ことを確認してください。				

項番	注意制限事項	Linux Windows			
		エージ゛ェント	エージ゛ェント	サーハ゛	コンソール
5.14	スケジュールシャットダウンが設定されている PowerChute Business Edition		•		
	エージェントに本 UPDATE をアップデートインストールする場合、処理に時間を要し、				
	OS のイベントログに下記エラーがログされることがあります。				
	しかし、動作には影響はありませんので途中で操作を強制終了等しないよう注意ください。				
	[イベントログ]				
	Windows Server 2003/Windows 2000/Windows XP の場合				
	エラー ID: 7011 Service Control Manager				
	APCPBEAgent サービスからのトランザクション応答の待機中に				
	タイムアウト(30000 ミリ秒)になりました。				
	Windows NT4.0 の場合				
	エラー ID: 7011 Service Control Manager				
	トランザクション応答待ちのタイムアウト (120000 ミリ秒)				
5.15	PowerChute Business Edition でシャットダウン時に使用するコマンドファイル		•		
	(デフォルトファイル名:default.cmd)を、名前を変えずにそのまま編集して使用して				
	いた場合、PowerChute Business Edition エージェントへ本 UPDATE を適用後、				
	編集した内容がクリアされ、デフォルトの状態になります。				
	本 UPDATE を適用する前に、default.cmd ファイルをバックアップし、本 UPDATE				
	適用後に default.cmd ファイルを戻してください。				
	なお、コマンドファイルをデフォルトから名前を変え別名で使用している場合は問題				
	ありません。				
	※コマンドファイルは、PowerChute Business Edition インストールフォルダ下の				
	Agent¥cmdfiles フォルダにあります。				

項番	注意制限事項	Linux	Windows		
		エージ゛ェント	エージ゛ェント	サーハ゛	コンソール
5.16	Linux 環境へ PowerChute Business Edition エージェントを新規インストールする場合				
	は、「PowerChute Business Edition v.6.1」の CD-ROM 媒体より、PowerChute Business				
	Edition エージェントをインストールしてください。手順の詳細については、PowerChute				
	Business Edition v.6.1.x 製品添付のインストールガイドを参照してください。				
	新規インストール後、本 UPDATE を適用してください。				
5.17	有効期限経過後に PCBE-061-003(PowerChute Business Edition に対するセキュリティ				
	パッチ)を適用する場合は、先に本 UPDATE を適用してください。				
	※ 有効期限前であれば、どちらを先に適用していただいても結構です。				
5.18	Express5800/SG300a、Express5800/FW300a、Express5800/FW500b 環境へ本 UPDATE	•			
	を適用する場合は、/var ディレクトリ下(サブディレクトリ含む)以外の別ディレクトリ(例				
	えば /opt/PCBE614)へアップデートモジュールをコピーし、アップデートを実行してくだ				
	さい。				
	/var ディレクトリ下でアップデートを実行した場合、下記メッセージが表示されアップデ				
	ートが適用できません。				
	bash: ./pbeagent_jce_patch: /bin/sh: bad interpreter: Permission denied				

6.事前準備

6.1.PowerChute Business Edition インストール確認

PowerChute Business Edition がインストールされているかを確認します。

- (1) Windows 環境の場合
- ① スタートメニューから[設定]→[コントロールパネル]を選択します。
- OS 毎に以下を実行します。

Windows NT4.0、Windows 2000 の場合 :「アプリケーションの追加と削除」 Windows XP、Window Server 2003 の場合:「プログラムの追加と削除」

③ インストールされているプログラム一覧に PowerChute Business Edition コンポーネント が存在するかを確認します。

エージェント: APC PowerChute Business Edition エージェント

- サーバ : APC PowerChute Business Edition サーバ
- コンソール : APC PowerChute Business Edition コンソール
- (2) Linux 環境の場合

以下のコマンドを実行し、PowerChute Business Edition エージェントがインストールされて いるかを確認してください。

rpm -q pbeagent

《インストールされている場合のメッセージ》
 pbeagent-6.1.0.21-1 (マスタサーバの場合)
 pbeagent-6.1.0.21-2 (スレーブサーバの場合)
 《インストールされていない場合のメッセージ》
 パッケージ pbeagent はインストールされていません

6.2.PowerChute Business Edition インストールフォルダの確認

(1) Windows エージェントコンポーネントの場合

※エージェントコンポーネントがインストールされている装置上で実施してください。

① 「スタート」→「検索」→「ファイルやフォルダ」を起動し、「pbeagent.exe」ファイル を検索します。

👧 検索結果						
ファイル(E) 編集(E) 表示(V) お気に)	入り(A) ツール(T) へ	ルプ(<u>H</u>)				1
◆戻る ▼ → ・ 回 ②検索 13.7#	ルダ 🎯 階 😤 🗡	< 20 III	•			
アドレス(1) 💫 検索結果					-	∂移動
検索 ×	名前	7大川英名				
(ℓ) 新規(N)	pbeagent.exe <	C:¥Program	n Files¥APC¥F	owerChute B	usiness Edition¥ager	nt
🛐 ファイルとフォルダを検索						
ファイルまたはフォルダの名前(M):						
pbeagent.exe						
含まれる文字列(<u>C</u>):						
探す場所(L): (コローカル ハード ドライブ (C:) ・						
<u>検索開始(S)</u> 検索状か(P)						
ほかの項目を検索: ファイルまたはフォルダ コンピュータ						
ム インターネット						
x	•					•
1 個のオブジェクト	AV 412			193 MB	בשעב זק 🖳	·\$ //.

 ② 検索結果を確認し、上記ファイルが存在するフォルダ名を控えます。
 上記の例では、PowerChute Business Edition エージェントのインストールフォルダは、
 「C:¥Program Files¥APC¥PowerChute Business Edition¥agent」となり、"agent "フ オルダの1つ上の階層までが PowerChute Business Edition のインストールフォルダと なります。

PowerChute Business Edition のインストールフォルダのデフォルト値は、

「C:¥Program Files¥APC¥PowerChute Business Edition」です。

※ここで確認した PowerChute Business Edition のインストールフォルダは、この後の作 業でも使用します。

- (2) Linux エージェントコンポーネントの場合※エージェントコンポーネントがインストールされている装置上で実施してください。
 - ① root 権限を持つユーザでログインします。
 - ② 以下のコマンドを実行し、PowerChute Business Edition エージェントのインストー ルパスを確認します。
 locate apclicense.txt.ja



【インストールパスが表示されない場合には】

インストールパスが表示されない場合には、以下のコマンドを実行し、データベースを 更新後、再度 locate コマンドを実行してください。

updatedb



- (3) サーバコンポーネントの場合※サーバコンポーネントがインストールされている装置上で実施してください。
- ① 「スタート」→「検索」→「ファイルやフォルダ」を起動し、「pbeserver.exe」ファイル を検索します。



② 検索結果を確認し、上記ファイルが存在するフォルダ名を控えます。
 上記の例では、PowerChute Business Edition サーバのインストールフォルダは、
 「C:¥Program Files¥APC¥PowerChute Business Edition¥server」となり、"server "フォルダの1つ上の階層までが PowerChute Business Edition のインストールフォルダとなります。

PowerChute Business Edition のインストールフォルダのデフォルト値は、

※ここで確認した PowerChute Business Edition のインストールフォルダは、この後の作業でも使用します。

6.3.PowerChute Business Edition バージョン確認方法

- 6.3.1.PowerChute Business Edition コンソールからの確認
 - PowerChute Business Edition サーバ/コンソールのバージョン確認
 ※コンソールコンポーネントがインストールされている装置上で実施してください。
 - ① 「Administrator」権限を持つユーザで Windows にログオンします。
 - ② 「スタート」→「プログラム」→「APC PowerChute Business Edition」→「コンソー ル」を起動します。
 - ③ 以下の画面が表示されますので、ユーザ名/パスワードを入力し、サーバ(サーバコンポ ーネントがインストールされた装置)を選択後、「接続」をクリックします。
 - ※ PowerChute Business Edition コンソールからログインする際には、PowerChute Business Edition サーバ毎にユーザ名/パスワードが必要です。 ユーザ名/パスワードは、システム管理者へご確認ください。



※ 有効期限経過後(B)の場合は、以下のメッセージが出力されログイン出来ません。 その場合は、以下の処理を省略し「6.3.2 インストールモジュールからの確認」へ進 んでください。



 ④ 以下の画面が表示されますので、メニューバーから、「ヘルプ」→「バージョン情報」を 選択します。

TAPC PowerChute Business	Edition		<u>_0×</u>
	 ヘルフ°(<u>H</u>) 目次(<u>C</u>) 現トビックのヘルフ°(o) 		ΔΡΟ
₹7/1名 _ 77~97 電源(1/2)分析 電圧分析	APCウェフサイト(A) → ハーパッパオ番組(b)_	UPS₹₹ ³]L SMART-UPS 700	፲~ን፻ገታውOS Windows 2000 5.0
9~5* 並選択	されていません		
製品のハ~ション情報を表示します		●接続先:Server	li

⑤ 以下の画面が表示されますので、サーバ/コンソールのバージョンが下記のいずれかになっていることを確認します。

下記のバージョン以外は、本アップデートの適用対象外です。作業を中止してください。



- (2) PowerChute Business Edition エージェントのバージョンの確認
 ※コンソールコンポーネントがインストールされている装置上で実施してください。
- ① 「Administrator」権限を持つユーザで Windows にログオンします。
- ② 「スタート」→「プログラム」→「APC PowerChute Business Edition」→「コンソー ル」を起動します。

- ③ 以下の画面が表示されますので、ユーザ名/パスワードを入力し、サーバ(サーバコンポ ーネントがインストールされた装置)を選択後、「接続」をクリックします。
 - ※ PowerChute Business Edition コンソールからログインする際には、PowerChute Business Edition サーバ毎にユーザ名/パスワードが必要です。





※ 有効期限経過後(B)の場合は、以下のメッセージが出力されログイン出来ません。 その場合は、以下の処理を省略し「6.3.2 インストールモジュールからの確認」へ 進んでください。

I-	×
8	APC PowerChute Business Edition サーバに接続できません。APC PowerChute Business Edition サーバ が動作しており、ホストがネットワークに接続されていることを確認してから、もう一度接続し直して下さい。
	(OK)

④ 以下の画面が表示されますので、バージョンを確認したいエージェント装置を右クリックし、「プロパティ」を起動します。

APC Power	Chute Business Editio モームの ットル(の) へい	n I⊐°(⊔)			
	⊗l ⊞l				AFC
	#スト名 →	77-27	UPS TF 11	I~ジェントのOS	
77-97	Server	正要 UPS検索(アラー Serverのシャットウ	SMART-LIPS 700 ムテスト)(山) がりン(S)) Windows 2000 5.0	
重調イベント分析		テジハジイスの削除 設定プロファイルの	⊗ の再適用♡		
电压分析		Ͻ[®]∏Λ[®]ティ			
	server UPSモデル: SMART-I 回 び 正常 詳細:ウステムは正常	UPS 700 ご動作しています。			場所: 連絡先:
]			●接読先:Server		

※ 有効期限経過後(B)の場合は、ステータスが不明表示されバージョン確認が出来ません。 その場合は、以下の処理を省略し「6.3.2 インストールモジュールからの確認」へ 進んでください。

T APC Powe	rChute Business Editio	on			_ 🗆 🗙
コンソール(C)	表示(⊻) ツール(亚) ヘノ	↓フ°(<u>H</u>)			APC
844	0				
0	#スト名 →	ステータス	UPS ₹デル	I-ジェントのOS	
(A)	Server	不明			
ステータス					
-					
電源イベント分析					
all					
A.A.					
電圧分析					
	server				場所:
	ロのなっトワーク通信	i kon Miri			建铅光:
	目 (アイクロククロ) 詳細:PowerChute I	、タリロル Business Edition サー	バカシ、 システムのPowerChut	e Business Edition	
	エージェットとの通信を	失いました。			
	推奨する対処方法	: この問題の解決	方法についてはオッラインヘル	7°の <u>ネットワーク通信切断</u> をお	「参照下さい。
	「可認識が増生決しないな	1日は こ勝人元にの	可い合わせてきい。		
		1 37 88	- With the Commen		
p n nxyxricia	ロックティースかのります。	1 1190	Utx a) / C:Server		11.

⑤ 以下の画面が表示されますので、エージェントのバージョンが「6.1.0.21」になっている ことを確認します。

本バージョン以外は、本アップデートの適用対象外です。作業を中止してください。



6.3.2.インストールモジュールからの確認

(1) Windows 環境の場合、以下の方法にてファイルバージョンによる確認が可能です。

【確認方法】

エクスプローラを起動し、PowerChute Business Edition インストールフォルダ下の各ファイル を右クリックし、プロパティを表示させます。

[バージョン情報]タブを選択し、ファイルバージョンを確認します。

※ 下記のバージョン以外は本アップデートの適用対象外です。作業を中止してください。

- ・ PowerChute Business Edition サーバ
 - ファイル名:%xxxx%¥server¥pbeserver.exe
 - ファイルバージョン: 6.1.1.0 または、6.1.0.0 (NT4.0の場合: 6.1.0と表示されます)
- PowerChute Business Edition コンソール
 ファイル名: %xxxx%¥console¥console.exe
 - ファイルバージョン: 6.1.2.2 または、6.1.1.18 または、6.1.0.21
- ・ PowerChute Business Edition エージェント
 - ファイル名:%xxxx%¥agent¥pbeagent.exe
 - ファイルバージョン: 6.1.0.0 (NT4.0の場合: 6.1.0と表示されます)
 - ※ xxxx=PowerChute Business Edition インストールフォルダ
- (2) Linux 環境の場合、以下のコマンドを実行し、PowerChute Business Edition エージェントが インストールされているかを確認してください。
- ※ 下記のバージョン以外は本アップデートの適用対象外です。作業を中止してください。

rpm -q pbeagent

≪インストールされている場合のメッセージ≫ pbeagent-6.1.0.21-1 (マスタサーバの場合) pbeagent-6.1.0.21-2 (スレーブサーバの場合) ≪インストールされていない場合のメッセージ≫ パッケージ pbeagent はインストールされていません

6.4.スケジュール情報の確認

- ※ コンソールコンポーネントがインストールされている装置上で実施してください。
- ※ 有効期限経過後(B)の状態であった場合、PowerChute Business Edition エージェント(APC PBE Agent)サービスの状態が開始中であるため、設定されているスケジュールシャットダウン は実行されません。その場合は、確認する必要はありませんので「6.5 サービスの状態確認 (変更)」へ進んでください。
- ※ スケジュールシャットダウン中(UPS がスリープ状態)に手動で起動し Update 適用作業を行った場合、Update 適用後のシャットダウンは「8.5 スケジュールシャットダウン中に手動にて マシンを起動し作業した際の注意事項」を参照し実施してください。
 - ① 「Administrator」権限を持つユーザで Windows にログオンします。
 - ② 「スタート」→「プログラム」→「APC PowerChute Business Edition」→「コンソール」 を起動します。
 - ③ 以下の画面が表示されますので、ユーザ名/パスワードを入力し、サーバ(サーバコンポー ネントがインストールされた装置)を選択後、「接続」をクリックします。
 - ※ PowerChute Business Edition コンソールからログインする際には、PowerChute Business Edition サーバ毎にユーザ名/パスワードが必要です。 ユーザ名/パスワードは、システム管理者へご確認ください。



④ 以下の画面が表示されますので、Update 適用を実施するエージェント装置を右クリックし、 「プロパティ」を起動します。

TAPC Power	Chute Business Ed	ition			
コンソール(C) ま	長示(⊻) ツール(エ)	∧⊮フ°(<u>H</u>)			APC
	🕑 🏛				
0	#スト名 →	77-22	UPSモデジル	I THYINDOS	
77-97	Server	エッ UPS検索(アラー Serverのシャット5	SMART-LIES 700 ムテスト)(世) (ウン(S)	Windows 2000 5.0	
小 市		デッバイスの削り余 設定フロファイル(☆ 図 D再適用①		
● ● E 分析		7°0/3°74			
	Server UPSTT 11: SMAR	T-UPS 700			場所: 連絡先:
	日 🔮 正常 詳細:9274は正?	名に動作しています。			
			◎接続先:Server		1.

⑤ 以下の画面が表示されますので、「シャットダウン」→「スケジュールシャットダウン」を 選択後、スケジュール設定されている時間を確認し、作業中にシャットダウン時間になら ないことを確認してください。

Tรัทสุวตราชการส Server				
 全般 キスト/UPS情報 管理者情報 UPSのID情報 UPSステータス 	<u> 予²-3の更新</u> 新規Iンド 700万字	7 】 削除	くケジュールシ	/ャットタ゛ウン
	ב-אַי <i>זי</i> אַש	概算日付/時刻	: 2005/06/17 10):18
ニー 電源ハウメース	かったつりの日時	N	8間	通度
● 1973-1979 ● 設断 ④ D77-11 ④ 通信	シャッ	・トダウ	ン開始	時間
▶ 詳細項目の表示		適用(<u>A</u>)	4+yt/l@)	<u>^//.7℃H</u>)
a had under story				

※スケジュールシャットダウンが設定されていない場合は、下記画面の様に何も表示 されていません。

᠋᠋ᡒ᠋᠄᠕ᡩ᠋᠋ᡔ			
Server			1
□·全般 ↓ ↓ ↓7ト/UPS情報	<u>データの更新</u>	スケジュー	ルシャットダウン
一管理者情報 UPSのID情報 UPSステータス	新規Iソビックロパティ	副除	
- パッテリステータス - 電源パラメータ - マトットオウソ - シャットオウソ - マトットオウソン - 東京がき - バットパネウソ - 電源時書 - ロッファイル 田 201 - 辺うテイル - 辺う	エージェントの概念	算日付/時刻: 2005/06/1	7 1 0:1 8
	シャットダウンの日時	期間	頻度
▶ 詳細項目の表示		適用(人) 閉じる((D 1.7%H)
準備完了。			

⑥ [閉じる]をクリックし、プロパティ画面を終了します。



⑦ [コンソール]→[終了]をクリックし、コンソールをログアウトします。

TAPC Powe	rChute Business Edition				_ 🗆 ×
コンソール(C)	表示(⊻) _ツール(エ) ^ルプ(出)				APC
ロゲイン設定	<u></u>				
エクスホペート(E)	ステータス	UPS TF NL	I~ŷ'nyŀØOS	
印刷(<u>P</u>)	er (a)	正常	SMART-UPS 700	Windows 2000 5.0	
(終7⊗)					
電源イベント分析					
-A≁					
蚕 圧分析					
	server				41 mini
	UPSモディル: SMART-UPS 70	00			連絡先:
	□◎●正常				
	詳欄:システムは正常に動作し	ノています。			
27916-0-VE29			o 按结牛 Commer		
111 33 3 CM	10430		Olse with Processes		1

6.5.サービスの状態確認(変更)

- ① 「コントロールパネル」→「管理ツール」→「サービス」を起動します。
- ② PowerChute Business Edition エージェント(APC PBE Agent)サービスおよび
 PowerChute Business Edition サーバ(APC PBE Server)サービスの状態を確認します。
 - 注意:有効期限経過後(B)の場合、サービスの状態が「開始中」と表示されます。 ただし、Windows NT4.0 ではサービスの状態が「開始中」でも「開始」と表示され ます。その場合の確認手順については、[補足]を参照してください。



 ③ PowerChute Business Edition エージェント(APC PBE Agent)サービスを右クリックし、 「プロパティ」を選択します。(PowerChute Business Edition エージェントがインスト ールされている場合のみ)

川-	名前 △	説明	状態	スタートアップの種類	ログオン	
) 	— 🍓 Alert Manager S	iock	開始	自動	LocalSy	
NUCX (U-NIM	Alerter	選択		手動	LocalSy	
	APC PBE Agent	APO	目動会	自動	LocalSy	
	APC PBE Serv	開始(S)		自動	LocalSy	
	Application Ma	停止(Q)		手動	LocalSy	
	Automatic Upc	一時停止(凹		自動	LocalSy	
	Background In	冉開(<u>M</u>)		手動	LocalSy	
	ClipBook	用起動性		手動	LocalSy	
	COM+ Event S	すべてのタスク	(K) I	• 手動	LocalSy	
	Computer Brov	日本の地また	- T # (/ C)	自動	LocalSy	
	DHCP Client	取利の自知	更新生)	自動	LocalSy	
	Distributed Lin	プロパティ(R)	自動	LocalSy	
	Distributed Tra	A 11 =\$/(L1)		手動	LocalSy	
	🖏 Dmi Event Wate			──手動	LocalSy	
	DNS Client	ドメイ	開始	自動	LocalSy	
	ESM Alert Servi	се	開始	自動	LocalSy	
	ESM Base Serv	ice	開始	自動	LocalSy	
	ESM Command	Ser	開始	自動	LocalSy	
	ESM Expert Ser	vice	開始	自動	LocalSy	
	ESM Logging Se	rvice	開始	自動	LocalSy	
	ESM Remote Ma	ap S.,	開始	自動	LocalSv	

④ 以下の画面が表示されますので、「ログオン」タブをクリックします。

פרביער חולרם	APC PBE Agent のプロパティ	<u>?</u> ×
全般 ログオン ロ	復 依存関係	
サービス名:	APCPBEAgent	
表示名(<u>N</u>):	APC PBE Agent	
説明(<u>D</u>):	APC PowerChute Business Edition Agent	
実行ファイルのパス C:¥Program Files	(<u>H</u>): ¥APC¥PowerChute Business Edition¥agent¥pbeagent.exe	
スタートアップの 種類(<u>E</u>):	自動	•
サービスの状態:	開始	
開始(5)	停止① 一時停止② 再開④	
ここでサービスを開始	告するときに適用する開始パラメータを指定してください。	
開始パラメータ(<u>M</u>)		
	OK キャンセル 適	∏ (<u>A</u>)

- 「デスクトップとの対話をサービスに許可」をチェックされているか確認します。
 確認が終わりましたら、「キャンセル」ボタンを選択し、プロパティ画面を閉じてください。
 - ※ここで確認した情報は、この後「7.2 Windows 環境への適用 (1) エージェントコン ポーネント」 ⑩項で使用しますので控えておいてください。

と ロクオン 回復 依存関係	
ヴオン・	
ローカルジステム アカウント(L)	10
↓ テスクトッノと切り詰をサービスに計可り	w
アカウント(1):	参照(<u>B</u>)
パスワード(<u>P</u>):	
パスワードの	
バスワードの 確認入力 ©:	
パスワードの 確認入力(©): の一覧にあるハードウェア プロファイルのサート	どスを有効または無効にできます(Y):
パスワードの 確認入力(2) の一覧にあるハードウェア ブロファイルのサー ハードウェア ブロファイル Yofile 1	ビスを有効または無効にできます(Y): リサービス 有効
パスワードの 確認入力(©): の一覧にあるハードウェア ブロファイルのサー ハードウェア ブロファイル Yrofile 1	ビスを有効または無効にできます(Y): サービス 有効
パスワードの 確認入力(©): の一覧にあるハードウェア ブロファイルのサー ハードウェア プロファイル 'rofile 1	ビスを有効または無効にできます(Y): サービス 有効
パスワードの 確認入力(©) の一覧にあるハードウェア ブロファイルのサー ハードウェア ブロファイル Yoofile 1	ビスを有効または無効にできます(Y): サービス 有効
パスワードの 確認入力(<u>©</u>): の一覧にあるハードウェア ブロファイルのサート ハードウェア ブロファイル Yofile 1	ビスを有効または無効にできます(<u>)</u> : サービス 有効 (カカービス)
パスワードの 確認入力(<u>C</u>): の一覧にあるハードウェア ブロファイルのサー \一ドウェア ブロファイル rofile 1	ビスを有効または無効にできます(<u>y</u>): サービス 有効 有効(<u>E</u>) 無効(<u>D</u>)

[補足]Windows NT4.0 環境の確認手順

- [スタート]-[プログラム]-[管理ツール(共通)]-[Windows NT 診断プログラム]を 選択し、Windows NT 診断プログラムを起動します。
- ② "サービス"タブを選択します。
- ③ 有効期限経過後(B)の場合、下記サービスの状態が"起動保留"となっています。

サービス	状態	
Alert Manager ALIVE(S) Service Alert Manager Main Service Alert Manager Socket(S) Service		
Alexter APC PBE Agent APC PBE Server	実行中 起動保留 起動保留	-
COM+ Event System Computer Browser DHCP Client	停止 停止 実行中 停止	
Directory Replicator ESM DMI Component Provider Service ESM Mylex Service	停止 実行中 実行中	
ISM Storage Service SSMAgentDMIService ISMCommonService	天行中 停止 重行中	
ESM Storage Service ESMAgentDMIService ESMCommonService	実行中 停止 実行中	

- ④ PowerChute Business Edition エージェント(APC PBE Agent)サービスを選択し、
 「プロパティ」ボタンをクリックします。(PowerChute Business Edition エージェントがインストールされている場合のみ)
- 「サービスはデスクトップと対話できる」がグレーアウトされていない場合は、
 「デスクトップとの対話をサービスに許可」にチェックされています。
 ※ここで確認した情報は、この後「7.2 Windows環境への適用 (1) エージェント
 コンポーネント」⑩項で使用しますので控えておいてください。

PC PBE Agentのプロ/	パティ	
役 依存関係		
パス名: C:¥	Program Files¥APC¥PowerC	hute Business
起動タイブ サービス アカウント名: エラーの重大さ: グルーブ:	自動 LocalSystem 標準	
- サービス フラクシー		
サービスは独自のフロ サービスはほかのサー サービスはカーネルディ	ロセスを実行する -ビスとプロセスを共有する パイストライバ	
サービスはディットッフ。	と対話できる	

※「デスクトップとの対話をサービスに許可」 チェックがない

場合は、グレーアウトされます。

6.6.Update 適用状況の確認

- (1) Windows エージェントコンポーネントの場合
 - 「スタート」→「プログラム」→「アクセサリ」→「コマンドプロンプト」を起動します。
 - 以下のコマンドを実行し、PowerChute Business Edition インストールフォルダに移動します。
 - cd /d " (PowerChute Business Edition インストールフォルタ、) ¥jre¥lib¥ext"



③ 以下のコマンドを実行し、ファイルのタイムスタンプを確認します。

Update 未適用の場合には、ファイルが存在しません。

タイムスタンプが下記の場合には、Update 適用済みのため作業の必要はありません。



④ 以下のコマンドを実行し、PowerChute Business Edition インストールフォルダに移動します。

cd /d " (PowerChute Business Edition インストールフォルタ`) ¥agent"

⑤ 以下のコマンドを実行し、ファイルのタイムスタンプを確認します。

Update 未適用の場合には、ファイルが存在しません。

タイムスタンプが下記の場合には、Update 適用済みのため作業の必要はありません。

dir Version.txt

	🖾 אלעסל אעדב				
	C:¥Program Files¥APC¥PowerChute Business Edition¥agent>dir Version.txt ドライブ C のボリューム ラベルは ローカル ディスク です ボリューム シリアル番号は 704F-A512 です				
	C:¥Program Files¥APC¥PewerChute Business Edition¥agent のディレクトリ				
\bigcirc	2004/11/30 17:06 36 Version.txt 1 個のファイル 36 バイト 0 個のディレクトリ 17,036,939,264 バイトの空き領域				
	C:¥Program Files¥APC¥PowerChute Business Edition¥agent>	×			
	2004/11/30 17:06 36 Versio	on.txt			

- (2) Linux エージェントコンポーネントの場合
 - ① root 権限を持つユーザでログインします。
 - 以下のコマンドを実行し、PowerChute Business Edition インストールフォルダに移動 します。
 - cd / (PowerChute Business Edition インストールフォルタ) /Agent/lib/

#cd /opt/APC/PowerChuteBusinessEdition/Agent/lib/

#

③以下のコマンドを実行し、ファイルの容量を確認します。

ls −al *.jar

ファイル容量が以下となっている場合には、Update 適用済みのため、作業の必要はありません。

[確認対象ファイル]

US_export_policy.jar	2,630
jce1_2_2.jar	74,869
local_policy.jar	2,621
sunjce_provider.jar	134,104

# ls -al *.ja	r					
-rr	1 root	root	60977	7月	5	2002 AdvSnmp.jar
-rr	1 root	root	15445	7月	5	2002 Debug.jar
-rr	1 root	root	15032	7月	5	2002 RXTXComm.jar
-rr <	1 root	root	2630	6月	14	22:43 US_export_policy.jar
-rr	1 root	root	45386	7月	ō	2002 activation.jar
-rr	1 root	root	15184	7月	5	2002 application.jar
-rr	1 root	root	29411	7月	5	2002 comm.jar
-rr	1 root	root	743386	7月	5	2002 ds.jar
-r-xr-xr-x	1 root	root	74869	6月	14	22:43 jce1_2_2.jar
-rr	1 root	root	7637	7月	5	2002 jcert.jar
-rr	1 root	root	3098	7月	5	2002 jnet.jar
-rr	1 root	root	75743	7月	5	2002 jsdk.jar
-rr	1 root	root	463863	7月	5	2002 jsse.jar
-rr <	1 root	root	2621	6月	14 2	22:43 local_policy.jar
-rr	1 root	root	84746	7月	õ	2002 m11.jar
-rr	1 root	root	10138	7月	5	2002 m11cfg.jar
-rr	1 root	root	234333	7月	5	2002 mail.jar
-rr	1 root	root	4011	7月	5	2002 makeuser.jar
-rr <	1 root	root	134104	6月	14	22:43 sunjce_provider.jar
-rr	1 root	root	41271	7月	5	2002 util.jar
- ④ 以下のコマンドを実行し、一階層上のフォルダに移動します。cd ...
- ⑤ 以下のコマンドを実行し、Version.txtのファイル容量が36バイトであることを確認します。 Update 未適用の場合には、ファイルが存在しません。

ls -al Version.txt

# cd			
# ls -al Vers	ion.txt		
-r-xr-xr-x	1 root	root	(36)6月 14 22:43 Version.txt
#			\bigcirc

- (3) サーバコンポーネントの場合
 - 「スタート」→「プログラム」→「アクセサリ」→「コマンドプロンプト」を起動します。
 - 以下のコマンドを実行し、PowerChute Business Edition インストールフォルダに移動します。
 - cd /d " (PowerChute Business Edition インストールフォルタ゛) ¥server"



- ③ 以下のコマンドを実行し、ファイルのタイムスタンプを確認します。 Update 未適用の場合には、ファイルが存在しません。
 - タイムスタンプが下記の場合には、Update 適用済みのため作業の必要はありません。 dir Version.txt

מי אעדב 🏧	ップト	
C:¥Program ドライブ ボリューム	n Files¥APC¥PowerChute E C のボリューム ラベルは ム シリアル番号は 704F-A	Business Edition¥server>dir Version.txt t ローカル ディスク です 4512 です
C:¥Progra	um Files¥APC¥PowerChute	Business Edition¥server のディレクトリ
2005/01/05	i 19:44 1 個のファイル 0 個のディレクトリ	36 Version.txt 36 バイト 17,038,254,592 バイトの空き領域
C:¥Program	n Fives¥APC¥PowerChute E	Business Edition¥server>

<u>以降の手順はエージェントコンポーネントが同一装置にインストールされていない場合</u> <u>に必要な確認です。</u> <u>同一装置にエージェントコンポーネントがインストールされている場合には、「7</u> <u>Update モジュール (PCBE-061-004) 適用手順」に進んでください。</u>

④ 以下のコマンドを実行し、PowerChute Business Edition インストールフォルダに移動します。

cd /d " (PowerChute Business Edition {\/\bar{\}}-\/7\tar{\}\\bar{\}`) ¥jre¥lib¥ext"



- ⑤ 以下のコマンドを実行し、ファイルのタイムスタンプが下記になっていることを確認しま す。Update 未適用の場合には、ファイルが存在しません。
 - dir



6.7.PowerChute Business Edition コンソールのログアウト

Update 適用時には、自サーバおよびリモートマシン上で、PowerChute Business Edition コンソール から Update 適用対象の PowerChute Business Edition サーバへ接続していない状態(ログアウトした 状態)で実行してください。

- 7.Update モジュール(PCBE-061-004) 適用手順
 - 7.1.PCBE-061-004 アップデートモジュールの解凍
 - Windows 環境マシンの任意の場所へアップデートモジュールをダウンロードします。 (ここでは例として C:¥UPDATE とします。)
 - ダウンロードしたアップデートモジュール (PCBE614.exe) をダブルクリックし起動します。
 - ③ PCBE614.exe をコピーしたフォルダと同じ場所に配下に以下のフォルダ/ファイルが作 成されます。(上記のフォルダの場合 C:¥UPDATE 配下に作成されます。)

・Windows フォルダ :Windows マ	シン用	
Bin フォルダ	45,521,301 バイト	
setup.exe	597,504 バイト	2005/03/08 14:50
setup.jp	177,664 バイト	2005/03/08 14:50
・LinuxSilentInstall フォルダ:Lin	ux マシン用	
pbeagent_jce_patch.tar	225,280 バイト	2005/03/08 14:51
• autorun.inf	57 バイト	2005/03/08 14:50
・手順書フォルダ		
update 手順書.txt		
手動アンインストール手順書.txt	<u>,</u>	

• readme.txt

7.2.Windows 環境への適用

有効期限経過後(B)の場合、Updateの適用作業中にOSの再起動が必要となります。 なお、ご使用中の環境がWindows XPかつ有効期限経過後(B)の場合は、本 Update モジュー ルより新規インストールが必要となります。

- (1) エージェントコンポーネント
- PowerChute Business Edition エージェントインストールフォルダ配下の cmdfiles フォ ルダを確認し、「default.cmd」ファイルが存在する場合には、ファイルを任意の場所にバ ックアップします。

※default.cmd ファイルがない場合は、②へ進んでください。

 ② 「7.1 PCBE-061-004 アップデートモジュールの解凍」で作成された Window フォルダ 内の「setup.exe」を起動します。



③以下の画面が表示されますので、「製品のインストール」を選択します。



- ④ 「エージェント」の「Update」をクリックします。
 - ※「Update」ではなく「Install」と表示されている場合には、本装置に該当コンポーネントがインストールされていません。

該当コンポーネントインストール済み装置を再確認してください。

APC PowerChute Business Editionのセットアップ	×			
製品のインストール				
PowerChute Business Edition エージェントは、UPSに保護された各コンピュータ上に インストール・て下さい。PowerChute Business Edition サーバは、各PowerChute Business Edition エージェントを集中管理するために1台のコンピュータにインストールして下 さい。PowerChute Business Editionコンリールは、各PowerChute Business Edition エージェントの参照や設定を行うデスクトゥア、ワークステーション、またはフゥフトゥアコンピュータ上 にインストールして下さい。				
エージェント インストー人済 Update				
サーハ [*] Update Update				
コンソール インストール済 Update				
マウスポインが巻[『エーンシン外"]、[『サーハ"]、または[『コンソール"]上に移動すると、各ンボーネント の説明が表示されます。				
 ○前へ ○スタートアップがイト* ● 約 ● 10 ● 10				

⑤ 有効期限経過後(B)の状態であった場合、以下のメッセージが出力されます。「OK」ボタン を押下し、スタートメニューから OS を再起動し、再度②より Update 適用を実行してく ださい。

メッセージが出力されない場合は、⑥へ進んでください。

'情報		
•	インストール システムの - Power - Power	を続行するために現在インストールされているAPC サービスの状態が「開始中」のサービスが削除されました。 毎起動後にトトアの観日のウィストールを再度行い、インストールを完了してください。 Chute Business Edition エージェント Chute Business Edition サーハ OK

PowerChute Business Edition エージェント/サーバどちらか一方しかイン ストールされていない場合は、インストールされているコンポーネントだけが 表示されます。

※ PowerChute Business Edition サーバの Update モジュール適用時に上記メッセージ が出力され OS 再起動した場合には、メッセージは出力されません。 注意:対象のサーバが Windows XP 環境の場合は、以下のメッセージが出力されます。 メッセージに従い、Windows XP をセーフモードで起動し、PowerChute Business Edition をアンインストールしてください。詳細については、「5 注意制限事項 (5.7)」を参照してください。 アンインストール後は OS を通常に起動し 「8 4 PowerChute Business Edition

アンインストール後は、OS を通常に起動し、「8.4 PowerChute Business Edition 新規インストール」を行ってください。



⑥ 以下の画面が表示されますので、「次へ」をクリックします。



⑦ 以下の画面が表示されますので、「はい」をクリックします。

用許諾契約 次の製品使用許諾契約を注意	記深くお読みください。
使用許諾契約の残りの部分を	表示するには、PAGE DOWNキーを押して下さい。
American Power Conversion	Corporation ソフトウェア使用許諾契約書
本ソフトウェア使用許諾契約 は、下記のセクション11を参照	書の翻訳は、ユーザの便宜のみを目的として提供されています。詳細 創してください。
本ソフトウェア使用許諾契約: Conversion Corporation(以後 であり、本契約書が付属して)	書(以後「契約書」)は、「ライセンサー」であるAmerican Power 灯APC」)あよびユーザ(以後「お客様」)の間で結ばれた法律上の契約 、らAPCソフトウェアに関するものです。
注釈:本ソフトウェア製品のポ	タンラベルが「同意します」と異なる場合「「はい」など)、「同意します」に
使用許諾契約の条項にすべて す。PowerChute Business Ed	【同意しますか?[いいえ]を選択した場合、セットアップログラムは終了しま itionをインストールするにコよ、使用許諾契約に同意する必要があります。
	[lまい] しいえ

⑧ 以下の画面が表示されますので、「完了」をクリックします。



- ⑨ ①でバックアップしたファイルが有る場合、PowerChute Business Edition エージェント インストールフォルダ配下の cmdfiles フォルダに上書き保存します。
 - ※「default.cmd」ファイルが既に存在するため上書き確認のメッセージが表示されます ので、「はい」をクリックし、上書き保存します。
 - ※ 上書き保存した default.cmd ファイルがバックアップした default.cmd ファイルとファ イルサイズおよび日時が同じであることを確認してください。
- ① 「6.5 サービスの状態確認(変更)」の確認で「サービスのデスクトップの対話をサービスに許可」がチェックされていた場合には、再度状態を確認し、チェックが外れている場合にはチェックします。

- (2) サーバコンポーネント
- 「7.1 PCBE-061-004 アップデートモジュールの解凍」で作成された Window フォルダ 内の「setup.exe」を起動します。

😋 C:¥UPDATE¥Wind	ows			-O×
ファイル(E) 編集(E) 表示(⊻) お気は	:入り(<u>A</u>) ツール(①)	ヘルプ(圧)	
⇔戻る • ⇒ • ট	②検索 3-7;	+NØ 🎯 🖻 🤨	: X ∽ <u></u> -	
アドレス(D) 🧰 C¥U	PDATE¥Windows			• 🔗 移動
名前 ム	<u>サイズ</u>	種類	更新日時	
Setup.jp	584 KB 174 KB	ファイル フォルタ アプリケーション JP ファイル	2005/06/17 1040 2005/03/08 14:50 2005/03/08 14:50	
種類: アプリケーション ち	セイズ: 583 KB	58	13 KB 📙 マイ コン	Ľ1-9 //

② 以下の画面が表示されますので、「製品のインストール」を選択します。



- ③ 「サーバ」の「Update」をクリックします。
 - ※「Update」ではなく「Install」と表示されている場合には、本装置に該当コンポーネン トがインストールされていません。

該当コンポーネントインストール済み装置を再確認してください。

APC PowerChute Business Editionのセットファフ*	×
製品のインストール	
PowerChute Business Edition エージェントは、UPSに保護された各コンピュータ上に インストールして下さい。PowerChute Business Edition サーハ(は、各PowerChute Business Edition エージェントを集中管理するために1台のコンピュータにインストールして さい。PowerChute Business Editionユンソールは、各PowerChute Business Editio エージェントの参照や設定を行うデスクトップ、ワークステーション、またはフップトップコンピュータ にインストールして下さい。	下 ýn 上
Iージェント インストール済 Lindata	
サーハ [*]	
コンソール インストール済 Lunder	
マウスホインがを[『エージェンド"]、【『サーハ"]、または【『コンソール"] 上に移動すると、各コンボーネント の 説明が表示されます。	
前へ スタートアップがイト* NUースノート BUSINESS EDITION	P N

- ④ 有効期限経過後(B)の状態であった場合、以下のメッセージが出力されます。「OK」ボタン を押下し、スタートメニューから OS を再起動し、再度①より Update 適用を実行してく ださい。
 - メッセージが出力されない場合は、⑤へ進んでください。

'情報		×
•	インストールを移 システムの再起 - PowerChu - PowerChu	行するために現在インストールされているAPC サービスの状態が「開始中」のサービスが削除されました。 動後に「下の観呂のインストールを再 度行い、インストールを完了してください。 te Business Edition エージェント te Business Edition サーハ [®]

PowerChute Business Edition エージェント/サーバどちらか一方しかイン ストールされていない場合は、インストールされているコンポーネントだけが 表示されます。

※ PowerChute Business Edition エージェントの Update モジュール適用時に上記メ ッセージが出力され OS 再起動した場合には、メッセージは出力されません。 注意:対象サーバが Windows XP 環境の場合は、以下のメッセージが出力されます。 メッセージに従い、Windows XP をセーフモードで起動し、PowerChute Business Edition をアンインストールしてください。詳細については、「5 注意制限事項 (5.7)」を参照してください。

アンインストール後は、OS を通常に起動し、「8.4 PowerChute Business Edition 新規インストール」を行ってください。



⑤ 以下の画面が表示されますので、「次へ」をクリックします。



⑥ 以下の画面が表示されますので、「はい」をクリックします。

使用許諾契約の残	Jの部分を表示するに:	J、PAGE DOWN≠−	を押して下さい。	
American Power C	onversion Corporation	ソフトウェア使用	許諾契約書	-
本ソフトウェア使用 は、下記のセクショ	許諾契約書の翻訳は、 ン11を参照してください	ユーザの便宜のみ:)。	を目的として提供されてい	ます。詳細
本ソフトウェア使用 Conversion Corpor であり、本契約書か	許諾契約書(以後「契約 ation(以後「APC」)およ が付属しているAPCソフト	り書」)は、「ライセン・ こびユーザ(以後「お トウェアに関するもの	サー」であるAmerican Pov 客様」)の間で結ばれた法)です。	ver 律上の契約
注釈:本ソフトウェフ	P製品のボタンラベルが	「同意します」と異な	ふ場合引まいなど)、「同	意します」に
使用許諾契約の条:	頃にすべて同意します	か?[いいえ]を選択	した場合、セットアッフラロクラ	山は終了しま

⑦ 以下の画面が表示されますので、「完了」をクリックします。



7.3.Linux 環境への適用

- ※ Linux 環境はエージェントのみサポートされています。
- ※ ご使用の環境によっては、メッセージ等の日本語表示ができない場合があります。この 場合、「kon」コマンド等で日本語表示モードにすることにより、日本語表示すること が可能となります。
- PowerChute Business Edition エージェントがインストールされている Linux サーバ上の任意の場所に、「7.1 PCBE-061-004 アップデートモジュールの解凍」で作成されたLinuxSilentInstall フォルダ内の「pbeagent_jce_patch.tar」をコピーしてください。 (ここでは例として /opt/PCBE614 とします。)
- ② 「pbeagent_jce_patch.tar」ファイルを格納しているディレクトリへ移動します。
 (上記ディレクトリの場合)

cd /opt/PCBE614

cd /opt/PCBE614

#

③ 以下のコマンドを実行してください。

tar -xvf pbeagent_jce_patch.tar

tar -xvf pbeagent_jce_patch.tar pbeagent_jce_patch/jce1_2_2.jar pbeagent_jce_patch/local_policy.jar pbeagent_jce_patch/pbeagent_jce_patch pbeagent_jce_patch/sunjce_provider.jar pbeagent_jce_patch/US_export_policy.jar pbeagent_jce_patch/Version.txt

④ 「pbeagent_jce_patch」ディレクトリが作成されますので、「pbeagent_jce_patch」
 ディレクトリへ移動してください。

cd pbeagent_jce_patch

cd pbeagent_jce_patch

#

⑤ 以下のコマンドを実行し、Update モジュールを適用します。

./pbeagent_jce_patch

./pbeagent_jce_patch
Installing PowerChute Buisness Edition Agent Patch...
Install complete
#

※「pbeagent_jce_patch」スクリプトを実行する際には、必ずファイルが格納されている ディレクトリへ移動してから実行して下さい。

ディレクトリを移動せず実行すると、エラーが表示され Update が適用できません。

≪エラーメッセージ内容≫

cp: cannot stat 'jce1_2_2.jar': そのようなファイルやディレクトリはありません cp: cannot stat 'local_policy.jar': そのようなファイルやディレクトリはありません cp: cannot stat 'sunjce_provider.jar': そのようなファイルやディレクトリはありません cp: cannot stat 'US_export_policy.jar': そのようなファイルやディレクトリはありません cp: cannot stat 'Version.txt': そのようなファイルやディレクトリはありません

⑥ プロンプトが表示されましたら、処理は終了です。

7.4.Update 適用結果の確認

- (1) Windows エージェントコンポーネントの場合
- 「スタート」→「プログラム」→「アクセサリ」→「コマンドプロンプト」を起動します。
- 以下のコマンドを実行し、PowerChute Business Edition インストールフォルダに移動します。

cd /d " (PowerChute Business Edition {\\7.\-\\7.\\9`) ¥jre¥lib¥ext"



- ③ 以下のコマンドを実行し、ファイルのタイムスタンプが下記になっていることを確認し ます。
 - dir



④ 以下のコマンドを実行し、PowerChute Business Edition インストールフォルダに移動します。

cd /d " (PowerChute Business Edition インストールフォルタ) ¥agent"

- ⑤ 以下のコマンドを実行し、ファイルのタイムスタンプが下記になっていることを確認します。
 - dir Version.txt

	אלעסל אעדב 🖾 🔤 🔤 🔤 🔤 🔤 🔤 🔤 🔤 🔤 🔤 🔤 🔤 🔤	-O×				
	C:¥Program Files¥APC¥PowerChute Business Edition¥agent>dir Version.txt ドライブCのボリューム ラベルは ローカル ディスク です ボリューム シリアル番号は 704F-A512 です					
	C:¥Program Files¥APC¥PowerChute Business Edition¥agent のディレクトリ					
<	2 004/11 /30 17:06 36 Version.txt 1 個のファイル 36 バイト 0 個のディレクトリ 17,036,939,264 バイトの空き領域	>				
	C:¥Program File s¥APC¥PowerChute Business Edition¥agent>					
	2004/11/30 17:06 36 Version.txt					

- (2) Linux エージェントコンポーネントの場合
- ① root 権限を持つユーザでログインします。
- 以下のコマンドを実行し、PowerChute Business Edition インストールフォルダに移動します。

cd / (PowerChute Business Edition インストールフォルタ*) /Agent/lib/

#cd /opt/APC/PowerChuteBusinessEdition/Agent/lib/

③ 以下のコマンドを実行し、ファイルの容量が下記となっているか確認します。
 ls -al *. jar

[確認対象ファイル]	
US_export_policy.jar	2,630
jce1_2_2.jar	74,869
local_policy.jar	2,621
sunjce_provider.jar	134,104

# ls -al *.ja	ar					
-rr	1 root	root	60977	7月	5	2002 AdvSnmp.jar
-rr	1 root	root	15445	7月	5	2002 Debug.jar
-rr	1 root	root	15032	7月	5	2002 RXTXComm.jar
-rr <	1 root	root	2630	6月	14	22:43 US_export_policy.jar
-rr	1 root	root	45386	7月	5	2002 activation.jar
-rr	1 root	root	15184	7月	5	2002 application.jar
-rr	1 root	root	29411	7月	5	2002 comm.jar
-rr	1 root	root	743386	7月	5	2002 ds.jar
-r-xr-xr-x	1 root	root	74869	6月	14	22:43 jce1_2_2.jar
-rr	1 root	root	7637	7月	5	2002 jcert.jar
-rr	1 root	root	3098	7月	5	2002 jnet.jar
-rr	1 root	root	75743	7月	5	2002 jsdk.jar
-rr	1 root	root	463863	7月	5	2002 jsse.jar
-rr <	1 root	root	2621	6月	14 2	22:43 local_policy.jar
-rr	1 root	root	84746	7月	5	2002 m11.jar
-rr	1 root	root	10138	7月	5	2002 m11cfg.jar
-rr	1 root	root	234333	7月	5	2002 mail.jar
-rr	1 root	root	4011	7月	5	2002 makeuser.jar
-rr <	1 root	root	134104	6月	14	22:43 sunjce_provider.jar
-rr	1 root	root	41271	7月	5	2002 util.jar

④ 以下のコマンドを実行し、一階層上のフォルダに移動します。

cd ..

⑤ 以下のコマンドを実行し、Version.txt のファイル容量が 36 バイトであることを確認し ます。

ls -al Version.txt

# cd			
# ls -al Vers	ion.txt		
-r-xr-xr-x	1 root	root	(36) 6 月 14 22:43 Version.txt
#			\bigcirc

- (3) サーバコンポーネントの場合
- 「スタート」→「プログラム」→「アクセサリ」→「コマンドプロンプト」を起動します。
- 以下コマンドを実行し、PowerChute Business Edition インストールフォルダに移動します。

cd /d " (PowerChute Business Edition {//ストールフォルダ) ¥ server"



- ③ 以下のコマンドを実行し、ファイルのタイムスタンプが下記になっていることを確認しま す。
 - dir Version.txt



<u>以降の手順はエージェントコンポーネントが同一装置にインストールされていない場合に必要な確認です。</u>

<u>同一装置にエージェントコンポーネントがインストールされている場合には、「(4)</u> PowerChute Business Edition コンソールからの確認」に進んでください。

④ 以下のコマンドを実行し、PowerChute Business Edition インストールフォルダに移動します。

cd /d " (PowerChute Business Edition インストールフォルタ、) ¥jre¥lib¥ext"



- ⑤ 以下のコマンドを実行し、ファイルのタイムスタンプが下記になっていることを確認しま す。
 - dir



 2002/06/27
 13:47
 134,104 sunjce_provider.jar

 2002/06/27
 13:47
 2,630 US_export_policy.jar

- (4) PowerChute Business Edition コンソールからの確認
- ① 「Administrator」権限を持つユーザで Windows にログオンします。
- ② 「スタート」→「プログラム」→「APC PowerChute Business Edition」→「コンソール」 を起動します。
- ③ 以下の画面が表示されますので、ユーザ名/パスワードを入力し、サーバ(サーバコンポー ネントがインストールされた装置)を選択後、「接続」をクリックします。
 - ※ PowerChute Business Edition コンソールからログインする際には、PowerChute Business Edition サーバ毎にユーザ名/パスワードが必要です。 ユーザ名/パスワードは、システム管理者へご確認ください。

ΔΡC	コソソールを接続するPowerChute Business Editior サーバ・のユーザ名とパタワートを入力して下さい。
www.apc.com	♪〜サ ⁵ 名: <mark> apc</mark> パペワ〜ト ² ** *
	サーバ*: Server マ ローカルサーバ*の検出

④ 以下の画面が表示されますので、「データの更新」ボタンをクリックします。

T APC PowerChute Business Edit	ion			
コンソール(C) 表示(V) ツール(T) ^	ルフ°(<u>H</u>)			APC
	ステータス	UPSモデル	I∽ິງ"າງ⊧ຫວຣ	
スアータス Street 電源イヘシナ分析 こ 電圧分析	≖** こをクリ	smart-ups 700 ツク	Windows 2000 5.0	
フーパが選択され Sourceum (Clair & example in the first of the source size (Clair & clair	ていません			
テッパイスリストには1台のテッパイスがあります	•	●接颖先:Server		11.

⑤ 以下の画面が表示されますので、「はい」をクリックします。



- ⑥ アップデートを適用した PowerChute Business Edition エージェントのステータスが
 「正常」であることを確認します。
 - ※ PowerChute Business Edition サーバと PowerChute Business Edition エージェント 間の通信が確立するまでに時間がかかるため、ステータスが正常表示されるまでに数秒 かかる場合があります。

T APC PowerCh	nute Business Edition				
コンソール(<u>C</u>) 表示	⊼∭ "∽⊬Œ ∿⊮7°(Ð			APC
0	\$2\$名 →	27-22	UPSモデジル	I-927h00S	
	🕖 Server 🛛 🤇		SMART-UPS 700	Windows 2000 5.0	
ステータス					
電源1457時分析					
~{}					
电注分机					
-					
	サールが必選択されている	t 12 %			
デジドイスリストには1台	のテババスがあります。		●接続先:Server		16.

アップデート適用前の PowerChute Business Edition コンソールのバージョンが「6.1 ビ ルド 21」あるいは「6.1.1 ビルド 18」であった場合、Update 適用後、PowerChute Business Edition サーバへログインする際、PowerChute Business Edition コンソールの Update がある旨がポップアップメッセージで通知されます。

その場合は[はい]を選択し、PowerChute Business Edition コンソールの Update を実行 してください。PowerChute Business Edition コンソールの Update は、PowerChute Business Edition サーバからダウンロードされ、その後自動的に PowerChute Business Edition コンソールの Update がインストールされます。

PowerChute Business Edition コンソールの Update インストール完了後、PowerChute Business Edition コンソールのメニューより、[ヘルプ]- [バージョン情報]を選択し、 PowerChute Business Edition コンソールのバージョンが「6.1.2 ビルド 2」に変更され ていることを確認してください。

[≪]注意≫

8.補足資料

8.1.有効期限経過後にインストールした場合のエラーメッセージ

有効期限経過後に PowerChute Business Edition v.6.1 または v.6.1.2 を新規インストールした場合、下記の状態となります。

- (1) PowerChute Business Edition $\pm \vec{y} \pm \vec{y} + \vec{y} = \vec{y} + \vec{y} +$
 - ・インストールは通常と同じように完了(エラー表示なし)
 - ・サービスの状態をサービスコントロールマネージャで確認した結果、「開始」と表示 される。
 - ※OS 再起動しても「開始」表示
 - ・デバイスの追加より PowerChute Business Edition エージェントを追加すると以下の メッセージが出力され追加できない。

「[ホスト名]にログインできません」

- WebUIからログイン不可
 ※ログイン開始から暫くすると「ページを表示できません」と表示される。
- (2) PowerChute Business Edition #-%
 - ・インストール途中で「サーバサービスを作成しています...」の画面で停止し、

インストールが完了しない。

回避策:タスクマネージャより強制終了します

 ・サービスの状態をサービスコントロールマネージャで確認した結果、「開始中」表示の ままとなっている。

※Windows NT4.0 では「開始」と表示される。

※OS 再起動しても「開始中」表示のままとなっている。

(Windows NT4.0 では「開始」と表示される。)

 PowerChute Business Edition コンソールからログインしようとすると下記メッセージ が表示されログイン不可

IŻ-	×
8	APC PowerChute Business Edition サーバに接続できません。APC PowerChute Business Edition サーハ [®] が動作しており、ホストがネットワークに接続されていることを確認してから、もう一度接続し直して下さい。
	<u>[ОК]</u>

8.2.data.dat 削除手順

- ① 「コントロールパネル」→「管理ツール」→「サービス」を起動します。
- ② PowerChute Business Edition サーバ(APC PBE Server)サービスを右クリックし、「停止」を選択する。

操作(<u>A</u>) 表示(⊻)	+ + 🗎 🖬 🖬 😭] 🖪	3 🕨	■ ■>	
ŋ−	名前人	説明	状態	スタートアップの種類	ログオン
. #. 87 (p. ±0)	— 🦓 Alert Manager Sock		開始	自動	LocalSy
	Alerter	選択		手動	LocalSy
	APC PBE Agent	APC	開始	自動	LocalSy
	APC PBE Server	APC	開始		LogalSy
	Application Manage	割り		開始の	alSy
	🧠 Automatic Updates	重要	開始	19正(U) 一時信止(0)	alSy
	🖓 Background Intellig	アイド		再開(M)	alSy
	🦓 ClipBook	リモー		重記勳(F)	alSy
	🖏 COM+ Event System	110-	開始		alSy
	Computer Browser	ネット	開始	すべてのタスク(<u>K</u>)	alSy
	DHCP Client	IP 7	開始	最新の情報に更新の	alSy
	🖏 Distributed Link Tra	ネット	開始		alSy
	🖏 Distributed Transac	複数		プロパティ(風)	alSy
	🦓 Dmi Event Watcher			ヘルプ(H)	alSy
	🧠 DNS Client	ドメイ	開始	日期	LocalSy
	🖏 ESM Alert Service		開始	自動	LocalSy
	🖏 ESM Base Service		開始	自動	LocalSy
	🖓 ESM Command Ser		開始	自動	LocalSy
	SM Expert Service		開始	自動	LocalSy
	🖏 ESM Logging Service		開始	自動	LocalSy
	ESM Remote Map S		開始	自動	LocalSy

※1 上記操作にてサービスの停止が行えない場合は、サービスの「プロパティ」を表示し、 「スタートアップの種類」を「手動」に変更し、サーバを再起動してください。

表示名(W): APC PBE Server 規明(D): APC PowerChute Business Edition Server 集行ファイルのパス(出): DXPProgram Files¥APC¥PowerChute Business Edition¥server¥pbeserver.exe なタートアップの 自動 重類(E): 自動 手動 サービスの状態: 無効 開始(G) 停止(T) 一時(停止(P) 再開(R)	ナービス名:	APCPBEServer
UPD Constraints for the server APC PowerChute Business Edition Server	表示名(<u>N</u>):	APC PBE Server
集行ファイルのパス(出): D¥Program Files¥APC¥PowerChute Business Edition¥server¥pbeserver.exe なタートアップの 自動 重類(E): 自動 手前 ナービスの状態: 開始(⑤) 「停止(T)」 一時(停止(P)」 再開(R)	兑明(<u>D</u>):	APC PowerChute Business Edition Server
	C:¥Program Files スタートアップの	¥APC¥PowerChute Business Edition¥server¥pbeserver.exe 白 計
サービスの状態 無効 開始(G) 停止(T) 一時停止(P) 再開(E)	種類(E):	
開始(6) 停止① 一時停止(2) 再開(3)	サービスの状態:	無効
	開始(S)	停止① 一時停止(P) 再開(B)
用方本 (ダニュビニカ()が)	3Bh4105J _ b(M)	

※2 上記※1の操作にての操作にて"スタートアップの種類"を「手動」に変更できな い場合は、レジストリエディタを起動し以下のレジストリキーの値を変更後、 サーバを再起動してください。

レジストリキー:

[HKEY_LOCAL_MACHINE¥SYSTEM¥CurrentControlset¥Services¥APCPBEServer] の"Start"の値を「3」に変更してください。

- 注意)レジストリはシステムにとって最も重要な部分ですので、作業を 行う際は管理者が十分注意の上、作業してください。
- PowerChute Business Edition サーバのインストールフォルダ内の data.dat ファイルを 削除します。
 - ※「PowerChute Business Edition サーバのインストールフォルダ」の確認手順は 6.2項を参照してください。
- ④ 本 Update 適用前である場合は、PowerChute Business Edition サーバ(APC PBE Server) サービスを停止したまま、「7 Update モジュール (PCBE-061-004) 適用手順」へ進ん でください。

本 Update 適用後である場合は、②の手順と同様にして PowerChute Business Edition サ ーバ(APC PBE Server)サービスを起動します。

※PowerChute Business Edition サーバ(APC PBE Server)サービスを起動すると新たに data.dat ファイルが作成されます。

※②項でサービスのプロパティを「手動」に変更した場合には、再度「プロパティ」画面 表示し、「スタートアップの種類」を「自動」へ変更してください。

8.3.手動アンインストール手順

8.3.1.Windows 環境の場合

PowerChute Business Edition を手動でアンインストールするには、インストール時に 作成されたフォルダおよびレジストリキーを削除する必要があります。

【重要】

レジストリエディタの誤った使用は、システム全般に渡る重大な問題を引き起こす可能性が あります。レジストリエディタを使用する場合には、十分注意の上作業してください。 また、事前にバックアップを採取しておくことを推奨します。

- ① APC PBE Agent と APC PBE Server サービスが存在する場合、サービスが停止して いることを確認します。
- ② エクスプローラ、あるいはマイコンピュータから、以下のフォルダを削除します。
 (インストールフォルダが C:¥Program Files の場合)

《エージェント》

 $C: \cite{Program Files} \\ \cite{APC} \\ \cite{PowerChute Business Edition} \\ \cite{APC} \\ \cite{APC} \\ \cite{PowerChute Business Edition} \\ \cite{APC} \\ \cite{A$

C:¥Program Files¥InstallShield Installation Information¥{BCE9F441-9027-4911-82E0-5FB28057897D} 《サーバ》

C:\Program Files\APC\PowerChute Business Edition\server

 $C: {\tt \ Program \ Files \ \ \ \ } APC {\tt \ \ \ } Power Chute \ Business \ Edition \ {\tt \ \ \ } console$

 $C: \label{eq:constant} C: \ensuremath{\texttt{Program Files}} Install Shield Installation Information \ensuremath{\texttt{W}} \{ 0F86FD09\ensuremath{\texttt{B}} A63\ensuremath{\texttt{+}} 4E45\ensuremath{\texttt{+}} A70B\ensuremath{\texttt{+}} 604C1106C2F2 \}$

C:¥Documents and Settings¥<ユーザ名>¥Application Data¥APC

《その他》

C:¥Program Files¥APC

③ 「スタート」→「ファイル名を指定して実行」を選択し、レジストリエディタを起動しま す。

Windows NT / 2000 の場合:「regedt32」 と入力 Windows XP / 2003 の場合:「regedit」 と入力

④以下のキーを削除します。

※ 幾つかのキーは削除するためにセキュリティの変更が必要となります。

例) HKEY_LOCAL_MACHINE¥SYSTEM¥ControlSet001¥Enum¥Root¥LEGACY_APCPBESERVER を削除しようとするとエラーが発生します。 【セキュリティ変更方法】

regedt32: [セキュリティ]-[アクセス許可]フルコントロールにチェックします。 **regedit** : [編集]-[アクセス許可]フルコントロールにチェックします。

《エージェント》

- $\cdot \ {\rm HKEY_LOCAL_MACHINE} \\ {\rm SOFTWARE} \\ {\rm APC} \\ {\rm PowerChute\ Business\ Edition} \\ {\rm Fagent\ } \\$
- HKEY_LOCAL_MACHINE¥SOFTWARE¥Microsoft¥Windows¥CurrentVersion¥App Paths¥v:
- $\label{eq:constant} \bullet HKEY_LOCAL_MACHINE \$SOFTWARE \$Microsoft \$Windows \&CurrentVersion \$Uninstall \$ \\ \\ \{BCE9F441 9027 4911 82E0 5FB28057897D\} \\$
- $\bullet \ {\rm HKEY_LOCAL_MACHINE \$SYSTEM \$ Control Set001 \$ Services \$ APCPBE Agent}$
- $\bullet HKEY_LOCAL_MACHINE \$SYSTEM \$ControlSet001 \$Services \$Eventlog \$Application \$APCPBEAgent$
- $\cdot HKEY_LOCAL_MACHINE \$SYSTEM \$CurrentControlSet \$Enum \$Root \$LEGACY_APCPBEAGENT$
- $\cdot \ {\rm HKEY_LOCAL_MACHINE{}} SYSTEM{{\rm }} CurrentControlSet{{\rm }} Services{{\rm }} APCPBEAgent$
- $\cdot HKEY_LOCAL_MACHINE \\ \$ SYSTEM \\ \$ Current \\ Control \\ Set \\ \$ Services \\ \$ Event \\ log \\ \$ Application \\ \$ APCPBE \\ Agent \\ \$ Services \\ \$ Event \\ log \\ \$ Application \\ \$ APCPBE \\ Agent \\ \$ Services \\ \$ Event \\ log \\ \$ Application \\ \$ APCPBE \\ Agent \\ \$ Services \\ \$ Event \\ log \\ \$ Application \\ \$ APCPBE \\ Agent \\ \$ Services \\ \$ Event \\ log \\ \$ Application \\ \$ APCPBE \\ Agent \\ \$ Services \\ \$ Event \\ log \\ \$ Application \\ \$ APCPBE \\ \$ Services \\ \$ Services \\ \$ Event \\ log \\ \$ Application \\ \$ APCPBE \\ \$ Services \\ \$ S$
- $\label{eq:head} \bullet \mathsf{HKEY_LOCAL_MACHINE} \\ \texttt{SYSTEM} \\ \texttt{CurrentControlSet} \\ \texttt{Services} \\ \texttt{Eventlog} \\ \texttt{Application} \\ \texttt$
- ・HKEY_LOCAL_MACHINE¥SYSTEM¥CurrentControlSet¥Services¥SNMP¥Parameters¥ExtensionAgents 内の値 "SOFTWARE¥APC¥PowerChute Business Edition¥agent¥snmp"

《サーバ》

- $\cdot \ {\rm HKEY_LOCAL_MACHINE} \\ {\rm SOFTWARE} \\ {\rm APC} \\ {\rm PowerChute \ Business \ Edition} \\ {\rm ¥server} \\ {\rm HKEY_LOCAL_MACHINE} \\ {\rm Yerver} \\ {\rm HKEY_LOCAL_MACHINE} \\ {\rm HKEY_LOCAL_MACHINE}$
- $\cdot \ HKEY_LOCAL_MACHINE \$SOFTWARE \$Microsoft \$W indows \$Current Version \$App\ Paths \$v \\ \vdots \ Software states that the states that the states the states that the states the states that the states that the states the states that the states the states the states that the states the$
- HKEY_LOCAL_MACHINE¥SOFTWARE¥Microsoft¥Windows¥CurrentVersion¥Uninstall¥ {A6491A4A-AAA0-4892-BFEF-ECD6CECE2FF3}
- $\cdot HKEY_LOCAL_MACHINE \\ \$ SYSTEM \\ \$ Control \\ Set001 \\ \$ Enum \\ \$ Root \\ \$ LEGACY_APCPBESER \\ VER \\ \$ SYSTEM \\ \$ Control \\ Set001 \\ \$ Enum \\ \$ Root \\ \$ LEGACY_APCPBESER \\ VER \\ \$ SYSTEM \\ \$ Control \\ Set001 \\ \$ Enum \\ \$ Root \\ \$ LEGACY_APCPBESER \\ SetVER \\ \$ SYSTEM \\ \$ Control \\ Set001 \\ \$ Enum \\ \$ Root \\ \$ LEGACY_APCPBESER \\ SetVER \\ \$ SYSTEM \\ SYSTEM \\ \$ SYSTEM \\ \$ SYSTEM \\ SYSTE$
- $\bullet {\rm HKEY_LOCAL_MACHINE{}} SYSTEM{\rm {} {\tt ControlSet001} {\tt {} {\tt Services}} APCPBES erver}$
- $\cdot HKEY_LOCAL_MACHINE \\ \$SYSTEM \\ \$CurrentControlSet \\ \$Enum \\ \$Root \\ \$LEGACY_APCPBESERVER$
- $\cdot \ HKEY_LOCAL_MACHINE \\ \$SYSTEM \\ \$Current \\ ControlSet \\ \$Services \\ \$APCPBES \\ erver$

《コンソール》

- $\cdot \ {\rm HKEY_LOCAL_MACHINE} \\ {\rm SOFTWARE} \\ {\rm FAPC} \\ {\rm PowerChute \ Business \ Edition} \\ {\rm Fconsole \ Software } \\ {\rm HKEY_LOCAL_MACHINE} \\ {\rm HKEY_LOCAL_MACHINE} \\ {\rm Formula \ Software } \\ {\rm HKEY_LOCAL_MACHINE} \\ {\rm HKEY_LOCAL_MACHINE}$
- $\cdot \ HKEY_LOCAL_MACHINE \$SOFTWARE \$Microsoft \$W indows \$Current Version \$App\ Paths \$\ console. exe$
- HKEY_LOCAL_MACHINE¥SOFTWARE¥Microsoft¥Windows¥CurrentVersion¥Uninstall¥ {0F86FD09-BA63-4E45-A70B-604C1106C2F2}

《その他》

 $\cdot \ {\rm HKEY_LOCAL_MACHINE} \\ {\rm SOFTWARE} \\ {\rm FAPC} \\$

⑤ レジストリエディタを終了します。

⑥ エクスプローラ、あるいはマイコンピュータから、以下のファイルを削除します。
 (System32 フォルダが、C ドライブの場合)
 C:¥WINDOWS¥system32¥APCSnmp.dll
 ※"C:¥WINDOWS"は、OS によって"C:¥WINNT"となります。

- ⑦ [スタート]-[プログラム] から APC PowerChute Business Edition を削除します。
- ⑧ デスクトップ上の 「APC PowerChute Business Edition コンソール」を削除します。
- ⑨ マシンのリブートを実行してください。

【注意】

PowerChute Business Edition のアンインストール後に、Windows の標準 UPS サービス (Windows 2000、Windows 2003、Windows XP の電源オプション)を使用するあるいは、 PowerChute plus を使用する場合には、標準 UPS サービスをインストールする必要がありま す。最も簡単な方法は PCBE Agent を再度インストールしてから、「コントロールパネル」 – 「アプリケーションの追加と削除」から"PCBE Agent"をアンインストールする方法です。こ の場合"PCBE Agent"のアンインストール時に標準 UPS サービスが再インストールされま す。しかしながら、標準 UPS サービスが再インストールされない場合には以下の手順に従っ て、標準 UPS サービスを再インストールしてください。

- a. 「スタート」メニューから「ファイル名を指定して実行」を選択します。
- b. 「regedt32/regedit」と入力して「OK」ボタンをクリックします。
- c. レジストリエディタが起動されます。
- d. HKEY_LOCAL_MACHINE レジストリキーを開きます。
- e. System¥CurrentControlSet¥Services¥UPS キーを開きます。
- f. 「表示」メニューで「ツリーとデータ」が選択されていることを確認します。
- g. この時点で UPS キーが開いており、右のウィンドウに UPS レジストリキーの値が表示 されていることを確認します。
- h. 右ウィンドウから ImagePath 値が以下の値であることを確認します。 ImagePath:REG_EXPAND_SZ: "%SystemRoot%¥System32¥ups.exe"

ー致すればステップi.へ進んでください。異なる場合は ImagePath 値を削除し、以下の手順を実 行してください。 【ImagePath の再作成手順】

- (1) UPS フォルダを選択し 「編集」 メニューをクリックします。
- (2) 「値の追加」 をクリックします。
- (3) 「値の名前」 に "ImagePath" を入力します。
- (4) 「データ型」 から REG_EXPAND_SZ を選択します。
- (5) 「OK」 をクリックします。
- (6) 「文字列」 に "%SystemRoot%¥System32¥ups.exe" を入力します。
- (7) 「OK」 をクリックします。
- i. 左のウィンドウを上へスクロールして、System フォルダをダブルクリックしサブフォ ルダを閉じる。
- j. System フォルダを再びダブルクリックし開きます。
- k. CurrentControlSet¥Services¥EventLog¥System¥UPS キーを開きます。
- 右ウィンドウに EventMessageFile 値が以下の値であることを確認します。
 EventMessageFile: REG_EXPAND_SZ: "%SystemRoot%¥System32¥netmsg.dll"

一致していれば、ステップ m.へ進んでください。異なる場合は EventMessageFile 値を削除し、 以下の手順を実行してください。

【EventMessageFile の作成手順】

- (1) UPS フォルダを選択し「編集」メニューをクリックします。
- (2) 「値の追加」をクリックします。
- (3) 「値の名前」に "EventMessageFile" を入力します。
- (4) 「データ型」から REG_EXPAND_SZ を選択します。
- (5) 「OK」をクリックします。
- (6) 「文字列」に"%SystemRoot%¥System32¥netmsg.dll"を入力します。
- (7) 「OK」をクリックします。
- m. レジストリエディタを終了します。

8.3.2.Linux 環境の場合

Linux 環境において手動アンインストールする場合は、以下の作業を行ってください。

- rpm コマンドよりアンインストールを実行します。
 rpm -e pbeagent
- PBEAgent サービスを停止します。 /etc/rc.d/init.d/PBEAgent stop
- ③ PowerChute Business Edition Agent のインストールディレクトリを削除します。
 例: rm -rf /opt/APC
- ④ PBEAgent サービスを削除します。
 rm -f /etc/rc.d/init.d/PBEAgent
 rm -f /etc/rc.d/rc0.d/K99PBEAgent
 rm -f /etc/rc.d/rc1.d/S99PBEAgent
 rm -f /etc/rc.d/rc2.d/S99PBEAgent
 rm -f /etc/rc.d/rc3.d/S99PBEAgent
 rm -f /etc/rc.d/rc4.d/S99PBEAgent
 rm -f /etc/rc.d/rc5.d/S99PBEAgent
 rm -f /etc/rc.d/rc6.d/K99PBEAgent

8.4.PowerChute Business Edition 新規インストール

新規インストールする際には、下記手順にてインストールしてください。 また、既にインストールされている PowerChute Business Edition をアンインストール後、 再インストールする際にも下記手順にてインストールしてください。

(1) Windows 環境の場合

PowerChute Business Edition の各コンポーネントを新規インストールする場合は、以下の手順に従って実行してください。

また、詳細については「PowerChute Business Edition v.6.1」のインストールガイドをご参照 ください。

- 「7.1 PCBE-061-004 アップデートモジュールの解凍」③項で作成された Windows フォ ルダ内の「setup.exe」をダブルクリックし、「APC PowerChute Business Edition のセッ トアップ」を起動します。
- ② 「製品のインストール」を選択します。
- ③ インストールする各コンポーネントの「Install」を選択し、画面に従って実行して ください。
- (2) Linux 環境の場合
- ※ ご使用の環境によっては、メッセージ等の日本語表示ができない場合があります。 この場合、「kon」コマンド等で日本語表示モードにすることにより、日本語表示すること が可能となります。
- PowerChute Business Edition エージェントを新規インストールする場合は、 「PowerChute Business Edition v.6.1」の CD-ROM 媒体より PowerChute Business Edition エージェントをインストールしてください。 詳細については「PowerChute Business Edition v.6.1」のインストールガイドをご参照く ださい。
- ② 「7.3 Linux 環境への適用」を実施してください。

8.5.スケジュールシャットダウン中に手動にてマシンを起動し作業した際の注意事項

PowerChute Business Edition および PowerChute *plus*からのスケジュールシャットダウン 中(UPS がスリープ状態)に手動で起動した場合、その後 PowerChute Business Edition および PowerChute *plus*のスケジュール機能以外でシャットダウンしてもスケジュール設定してい る起動時間にマシンは自動起動されません。設定時間にマシンを自動起動する場合には手動で 起動した後、以下の手順にてシャットダウンを行ってください。

(1) PowerChute Business Edition の場合

- ① 「Administrator」権限を持つユーザで Windows にログオンします。
- ② 「スタート」→「プログラム」→「APC PowerChute Business Edition」→「コンソール」 を起動します。
- ③ 以下の画面が表示されますので、ユーザ名/パスワードを入力し、サーバ(サーバコンポー ネントがインストールされた装置)を選択後、「接続」をクリックします。
 - ※ PowerChute Business Edition コンソールからログインする際には、PowerChute Business Edition サーバ毎にユーザ名/パスワードが必要です。

ユーザ名/パスワードは、システム管理者へご確認ください。



④ 以下の画面が表示されますので、該当するエージェント装置を右クリックし、「プロパティ」 を起動します。

TAPC Power コンソール(C) ま	Chute Business Editi 表示(V) ッール(T) へ	on ルフ*(<u>H</u>)			
	()				
9	#スト名 →	77-27	UPS ₹ テ %L	I-ŷ'nyトのOS	
27-97	Server	ーマー UPS検索のラー Serverのシャット	SMART-LIES 700 ムテスト)(山) ジウン(S)…	Windows 2000 5.0	
一 通		デバイスの削除 設定フロファイル	⊗ の再適用 (Y)		
《小 電圧分析		ጋግ በላቸን			
	server UPSर्रे गी: SMART-	-UPS 700			場所: 連絡先:
	□ ③ 正常 詳欄:システムは正常	に動作しています。			
]			●接読先:Server		

 ⑤ 以下の画面が表示されますので、「シャットダウン」→「スケジュールシャットダウン」を 選択後、スケジュール設定されている時間を確認します。

Server			1		
∃-全般 !!!+7\/\\De¢体報		スケジュー	ールシャットダー	ウン	
所知 Drain報 管理者情報 …UPSのID情報 …UPSステータス	新規IVN9 7年のディ 前的	 }:			
… パッテリステータス 毎3店は55マニタ	Iージェントの概算日	付/時刻: 2005/06/	1710:18		
コーシャットダウン	3000 · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	期間	類度		
	2005/06/17 20:00:00	3時間	毎日	>	
└──電源障害 E──診断					
⊡ 47、721ル ⊡ 通信	シャツ	トダウンの日時	寺:シャッ	, トダウンが	実行される日時
		目,北,水,	「白山ナフ	山山田	
	労旧		1停止9る) [1] [1]	
	頻度	そ:毎週/毎	≨日/一度	まのみ	

※シャットダウンスケジュールが設定されていない場合は、何も表示されません。

・頻度が「毎日」の場合

「シャットダウンの日時」に指定されている時間 +「期間」に指定されている時間が次回 スケジュール起動時間になります。

・頻度が「毎週」の場合

「シャットダウンの日時」に指定されている日付を確認し、該当の曜日のスケジュールを 確認します。

該当する曜日の「シャットダウンの日時」に指定されている時間 + 「期間」に指定されて いる時間が次回スケジュール起動時間になります。

- ・頻度が「一度のみ」の場合 スケジュールシャットダウンが実行されると、「シャットダウンの日時」は削除されます。 頻度が「一度のみ」で設定されている場合は、システム管理者へ次回起動日時をご確認く ださい。
- ⑥ 「閉じる」ボタンをクリックし、プロパティ画面を終了します。

⑦ PowerChute Business Edition コンソールより該当するエージェントを選択し、右クリックメニューの「<ホスト名>のシャットダウン」を選択します。

コンソール(<u>C</u>) ま	Chute Bu 長示(⊻)	siness Edition ツール(T) ヘルフ°(H)				
	@ m	1				
A	#71名	2	77-97	UPSモデル	I-9'z7F00S	
A	Serv	a r	正堂	SMART-UPS 700	Windows 2000 5.0	
ステータス	0	UPDi東来Vフーム Serverのシャットダ	サストヘビー ウン(S)	5		
		デバイスの削除() 設定プロファイルの	♀ 再適用⟨⊻)			
		フ ゚ ロハ ゚ ティ				
SW						
電圧分析						
電圧分析	serve	. Г ∓ ⁹ II - СМАПТ_I IDC 7	00			場所:
電圧分析	serve UPSŧ ⊡ ♥ IE ≩#I:	す 1: SMART-UPS 7 常 ジステムは正常に動作	00 しています。			場所: 連絡先:

- ⑧ 以下の画面が表示されますので、UPS シャットダウンタイプを「自動再起動」に変更 設定後、UPS をオンにするまでの待機時間を設定し、「適用」ボタンを選択します。
 - ※ 「UPS をオンにするまでの待機時間」は、⑤で確認した次回サーバスケジュール 起動時間に到達するまでの時間を逆算して計算してください。
 - ※ シャットダウン開始前の待機時間を設定する場合は、「シャットダウン開始までの時間」を設定してください。すぐにシャットダウンを実行する場合は、設定する 必要はありません。

Serverのシャットタウン	×
Server	
シャットシやソ開始待機時間、一定時間経過後に再起動する/ およびUPSをオン」にする時間を指定します。	りどうか、
分 秒 シャットシウン開始までの時間: 0 <u>↓</u> : 0 <u>↓</u> UPSシャットシウンタイ7: 自動再起動	
JPSをオッドにするまでの待機時間: 0 <u>+</u> 6 <u>+</u> 0 日 時間 分	-
適用(A) 閉じる(C) ハルアや)	

⑨ 以下のメッセージが出力されますので、「はい」を選択します。

警告	×
	警告にの操作を行うとServerをシャットタウンします、本当にシャットタウンしますか?

⑩ 以下の画面下に、"シャットダウン待機中"が表示されることを確認してください。

TAPC Power コンソール(C) ま	Chute Business E 表示(V) ッール(T)	idition ヘルフ ^{*(} <u>H</u>)			
	@ m				
9	ホスト名 →	77-27	UPS TF 11	I-ジェットのOS	1
(A)	Server	重大	SMART-UPS 700	Windows 2000 5.0	
ステータス					
● 通道イベント分析					
金小 電圧分析					
	server UPSTŢŶL: SMA	RT-UPS 700			場所: 連絡先:
	 	ፇトダウン開始 ≀の原因については、以下の	リストを参照して下さい。		
	⊞ <mark>₫</mark> シャットŷウ	>待機中			
テッパ・イスリストには1	, 台のテンドィスがありま	ます。.1 重大	●接続先:Server		

- (2) PowerChute *plus*の場合
 - ① 「Administrator」権限を持つユーザで Windows にログオンします。
 - ② 「スタート」→「プログラム」→「PowerChute *plus*」→「PowerChute *plus*」を起動 します。
 - ③ 以下の画面が表示されますので、「構成」-「スケジュールテスト/シャットダウン」を 選択します。

APC SMA	UPS 動作い。ラメータ(Q)		20	005/07/19 23:
監視: 犬態: IPSセルフテスト:	UPS シャットタウン パラメータ(日 通信パラメータ(C) アフリケーション シャットタウン パッ フォルト・トレランス データ(F)) iy-\$(<u>A</u>)	出力電圧 130	ハ [*] ッテリ容量 100
	イベント アクション(E) イベント ユーサ՞(<u>U</u>)		110	60
JPS出力: 最小電圧: 最大電圧:	Measure-UPS パラメーな(<u>D</u>)		100	40
IPS温度: 出力周波数:	43.2 °C 60.0 Hz	90 80 105.9 VAC	90 80 0.0 VAC	20 0 100.0 %
⊒ √ 2 / ∧ [*] ∧] .				

- ④ 以下の画面が表示されますので、設定されているスケジュールシャットダウンを確認します。
 - ※ 画面をスクロールし、何もバーが表示されていない場合には、スケジュールは設定 されていませんので、以降の手順は不要です。
 - ※「指定日」にてスケジュールシャットダウンが設定されている場合は、時間バーが 青色で表示されています。また、「毎週」の場合は緑、「毎月」の場合は赤で表示さ れますので、モードを変更し確認してください。

Smart Scheduling 指定日 指定日	指定日	毎週	毎月	_					×
毎月	4前0時	234	5 7 8	9 10 11	4 13 14 15 16 1	7 19 20 21 2	223	1ベント作成	
日 2005/07/	17							シャットタ ウン	
月 2005/07/	18								
火 2005/07/	19								
水 2005/07/3	20	1 - C						セルフテスト	
木 2005/07/2	21							削除	
金 2005/07/3	22								
± 2005/07/3	23						-	OK キャンセル	
			ha la da da						

⑤ モードを「指定日」に変更後、「シャットダウン」をクリックします。

時週 毎月		午前0時	23	45	6	3 9 1(正: 11 	午 13 14 ((15 16 1 ((18 7 1	9 20 21	午前(22 23)時 「	イベント作成	
日 20	105/07/	17											•	シャットダウン	
月 20	105/07/	18												載正	
火 20	105/07/	19													
水 20	105/07/	20		100										セルフテスト	
木 20	105/07/	21		Î.			1							削除	
金 20	105/07/	22													
± 20	105/07/	23											-	ок	キャンセル
				198 MA											

- ⑥ 以下の画面が表示されるので、以下の内容を設定後、「OK」をクリックします。
 タイプ:シャットダウン
 モード:指定日
 日付(上段):今日の日付
 時間(上段):現在時刻より数分(5分程度)後
 - 日付(下段):スケジュール起動するべき日付
 - 時間(下段):スケジュール起動するべき時間

イベント編集 タイプ: シャットダウン 💌 モート: 指定日	
イベント編集 (yyyy/MM/dd)	ОК
日付:火 2005/07/19 🗙 時間: 23:15 🔹	キャンセル
日付: 水 2005/07/20 🔹 時間: 08:00 🗙	

⑦ 設定済みのスケジュールシャットダウンと新規に設定するスケジュールシャットダウンが重複する場合、以下のメッセージが出力されますので「OK」ボタンを押し、⑧へ進んでください。

<u>重複するスケジュールシャットダウンが存在しない場合は、以下のメッセージは出力</u> されませんので省略し、次項へ進んでください。

※「毎週」または「毎月」で設定したスケジュールシャットダウンと「指定日」で設 定したスケジュールシャットダウンが重複した場合、「指定日」で設定したスケ ジュールシャットダウンが有効となります。



<「毎月」の場合>

pwrchute		×
•	この新規イベントは次のスケジュールさ れたイベントを無効にします。: 第 1火曜日 22:00から水曜日 08:00 までの毎月のシャットダウン	OK
⑧ 追加したスケジュールが正しく表示されていることを確認し「OK」ボタンを押します。

	1	234	5 	789 ////	10 11	13 14 1	5 16 17	19 20 21	22 23	· 「イベント作成―	
日 2005/07/	17									シャットダウン	
月 2005/07/	18										
火 2005/07/	19									+52.11	
yk 2005/07/3	20									セルフテスト	
木 2005/07/3	21									削除	
金 2005/07/3	22										
± 2005/07/:	23		2 60 W						-	ОК	ヤンセル
	- 1. 7. eeo	- (07.(0)			1.4544						

- ※ 以前のスケジュールシャットダウンが「指定日」で設定されていた場合、以前の設 定内容が表示されていることがあります。その場合は、「OK」ボタンを押し Smart Scheduling 画面を閉じた後、再度 Smart Scheduling 画面を起動することで設定内 容が更新されますので、新規に設定したスケジュールシャットダウンが正しく表示 されているかを確認してください。
- ・⑥ 最終イベントに"管理上のシャットダウンを開始しました。"と表示されることを確認してください。



※ このイベントは、シャットダウン開始時刻の15分前から表示されます。